

# 第4次静岡市総合計画「見直しの考え方」に関するパブリックコメントの実施結果について

令和7年7月から8月にかけて実施した第1回目のパブリックコメントでは、第4次静岡市総合計画(以下「4次総」)の見直しに関して、具体的な内容ではなく「見直しの考え方」として、市政運営の方向性を示し、この考え方について広くご意見をいただきました。

市民の皆様からは多岐にわたる貴重なご意見を頂き、心より感謝申し上げます。

どのご意見からも、将来の静岡市のあり方について、真剣に考えてくださった気持ちが伝わってきました。  
静岡市の未来を見据え、前向きなご意見をお寄せいただけることは、私たちにとって大変ありがたく、心強いことです。

皆様からいただいたご意見と、それに対する静岡市の考え方について公表します。

また、いただいたご意見を踏まえ、4次総見直しの内容を作成しました。この内容については、令和7年12月からパブリックコメントを実施し、市民の皆様のご意見を伺っていきます。

1 実施期間 令和7年7月22日(火)から8月21日(木)まで

## 2 周知方法

- (1) 配架 企画課及び各区役所、各生涯学習施設、各図書館  
(2) 広報 市ホームページ及び市公式X、LINE

3 意見数 38名から95件の意見

ご意見のあった分野	件数(件)
4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	33
共生・福祉・健康	6
防災・消防・防犯	2
こども・子育て	6
教育・人づくり	2
経済・産業	9
観光・スポーツ・文化	17
都市・社会基盤	8
環境・森林	3
行政経営	1
その他	8
計	95

No.	分類 (現行4次総)	資料に対するご意見	ご意見に対する静岡市の考え方
1	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	P2「静岡市の課題」「静岡市の人口減少とその原因」人口減少は複合的なものだと思うのですが、それにも関わらず、行政としての課題を端的に示されていて、4次総の見直しがなぜ必要なのか、端的に理解することができました。過去を批判的に振り返るのは大変だったかと思うのですが、市民として理解しやすいです。	ご指摘のとおり、人口減少は複合的な要因によるものであり、静岡市ではその背景を丁寧に整理したうえで、行政としての課題を明確に示しました。特に、若年層の市外流出をはじめとした静岡市特有の課題を正面から捉え、将来に向けた対策の必要性を示しています。 今回、過去の取組を振り返ったのは、市民の皆さんに現状と課題を正しく理解いただくことが、共に未来を描く第一歩であると考えているからです。 今後も、市民の皆さんに分かりやすい形で課題と方向性を示し、人口減少や地域課題の解決に向けて、4次総の見直しを着実に進めていきます。
2	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	静岡は交通の便に恵まれすぎていて、結局北陸や東北のように便が悪いと思われていた地方に追い抜かれてしまったと思います。友人達も東京へ行くときに寄るよ！と言ってくれても結局寄ってくれません。いつも行けると思っているからです。今年は金沢へ行こうでなく静岡へ行こう！という強い動機付けが必要だと思います。	ご指摘のとおり、静岡市は交通の便が良いという強みを持っていますが、それだけで人が訪れるわけではありません。静岡市に「行きたい」と思ってもらえるような魅力を高めていくことが重要です。 日本平、久能山東照宮、三保松原、東海道など歴史ある観光資源をさらに魅力的で楽しめる場所へ磨き上げ、「静岡へ行こう！」と思っていただけるような動機付けの強化に取り組んでいます。 また、高速道路のIC周辺などアクセス性の高いエリアには、集客力の高い拠点を形成することで、市外・県外の方からも、目的地として選ばれる静岡市を目指していきます。
3	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	成果志向型となり自分に関わることがあることとしてイメージしやすくなる点は良いと思います。心配な点は、目標とする成果の吟味や調整がトップダウンになってしまわないかという事です。市民に望まれている成果なのかどうか、議会や市民参加の機会を活用して柔軟性を持たせていただきたいです。	成果志向型の導入にあたっては、市民参画や議会での議論を通じて、例えば「子育て支援や子育て環境の総合的な満足度」や、「観光客一人あたりの観光消費額」など、市民にどのような利益や利便がもたらされるかといったアウトカムを重視した目標設定を行っていきます。
4	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	P1基本認識 「成果志向型」の方向性そのものには賛成します。ただし、福祉や環境、教育の分野では、成果が数値化しにくい取り組みも多いと考えます。たとえ多くの市民に直接の関係がなくても、行政が必ず守るべきセーフティネットであったり、超長期的に効果が現れるものが含まれており、政策の中で軽視されないことが重要です。特に教育は、短期的には「受益者負担」と誤解されるリスクがあります。しかし教育は将来、社会全体に利益をもたらす投資であり、選択肢を厚く豊かに残すことが必要だと考えます。 もちろん、すべてを守りの姿勢にしては総花的になってしまふため、優先順位付けは不可欠だと思います。ただその際にも、福祉・環境・教育といった分野が見落とされないよう、例えば第3パラグラフ（「一方、成果志向型は…」の箇所）に「ただし、福祉・環境・教育など長期的に行政が担うべき施策については、成果志向に偏らず、持続的に取り組む」旨の一文を追加いただければ、よりバランスが取れる感じします。	ご指摘のとおり、福祉・環境・教育は、目に見える成果が出にくい分野ですが、暮らしを支える基本的な行政サービスとして、行政が責任を持って継続的に取り組むべきものです。 特に教育は、未来への投資であり、こどもから大人までの学びを支える環境の充実は、社会全体の利益につながるとともに、教育が充実したまちには人が集まり、地域の活力にもつながります。 今後の計画見直しにおいては、こうした分野も重視しつつ、長期的視点やセーフティネットの役割も十分に考慮し、バランスの取れた計画策定に努めていきます。
5	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	政策集型と成果志向型の説明は、興味のある人がいないと思うので紙面の無駄かと思います。それよりもなぜ共創・共助が必要で、なぜ目指す姿が重要かを説いた方が良いかと思います。	ご指摘のとおり、「政策集型と成果志向型の違い」の説明は専門的であり、理解しづらい面があると認識しています。 4次総に掲げる政策の実行によって、市民にどのような幸せをもたらすかを示すためには、まず市民が望む社会の姿を描くことが重要です。そのうえで、その実現に向けた政策を実行することで、どのような幸せ（アウトカム）がもたらされるのかを明確に示す必要があります。 そして、静岡市を取り巻く社会課題は、複雑化・深刻化・多様化しており、こうした多種多様な課題の解決のためには、行政の力だけではなく、市民・地域社会・企業・大学など、社会全体の力による「共創・共創」が不可欠です。 4次総の見直しにあたっては、専門的な概念の説明に偏らず、「なぜ目指すまちと暮らしの姿が必要か」「なぜ共創・共創が必要か」といった本質的な内容を、より分かりやすく伝えていきます。
6	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	「誰もが幸せを実感し、住み続けたいと感じられるまち」を目指すことに関して賛成です。 私は大学で東京に出たいと考えていましたが、家庭の都合で県内の大学進学を余儀なくされました。 しかし県内の大学進学をきっかけに、静岡市の様々な活動に参加することで魅力を再発見することとなりました。 現在は静岡の企業にそのまま就職し、静岡に生まれ静岡で育ち静岡のために働いています。 私自身もどうしたら私と同じように魅力を感じてもらえるか参画者としてこの問題に取り組みたいです。	静岡市内での学びや活動を通じて地域の魅力を再発見し、地元企業でご活躍されているという経験は、非常に貴重なご意見です。 若い世代の流出が課題となる中で、こうした実体験は、多くの若者に静岡市にとどまつもらうための取り組みを考えるうえで、大切な手がかりになると感じています。 今後もぜひ、静岡市の未来を共に考える仲間として各種取組にご参画いただければ幸いです。
7	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	2ページ 4次総合計画の見直しの方向性で、誰もが幸せを感じ永住したいと感じる街の実現をすることが重要とありますが、現市民がどのような想いが今の静岡市にあるのか、年齢層により考えは異なると思うので、若年層から高齢者までが何があれば生活しやすい街になるのかがベースとなると感じています。この誰もが幸せを感じることは重要ですので、暮らしがしやすい街にするには何が必要かをこの方向性に示してほしいです。ハード的な整備だけでなく、人口が減少していく中で役所としてできることソフト的なサービス、補助をすることで、若者から、子育て世代、高齢者にとっても求めているサービスではないかと思います。子供を産んで育てることが、生活することがしやすい街にするための施策を実行して盛り込んでほしいです。	「誰もが安心して暮らし、幸せを感じ、住み続けたいと感じられるまち」の実現には、安心して暮らせる環境と、幸せを感じできる環境の両方が必要です。 「安心な暮らし」や「幸せの実感」は、年齢や立場によって異なります。例えば、こどもには安全な遊び場や学びの場、子育て世代には子育て支援や働きやすさ、高齢者には健康や暮らしの支えなど、それぞれに合った環境づくりが求められます。 こうした多様なニーズに応えるため、ハード整備に加え、行政としてのソフト面での支援やサービスの充実などを、4次総の見直し案に丁寧に反映していきます。

No.	分類 (現行4次総)	資料に対するご意見	ご意見に対する静岡市の考え方
8	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	多くの人が住みよい、長く住みたいと思える街に生まれ変わらには、人に優しい街になることです。これ大事です。企業立地による他都市からの移住も大事ですが、今の青年期の人たちが、ここ静岡市で暮らし生活できるように子供をもっても住みやすく生活しやすいサポートが必要です。これはハード整備ではなくソフト整備の充実です。是非ともここにお金をかけて未来に向けた投資と思って施策を進めてほしいです。新築のハード整備は不要です。文化会館やアリーナ、水族館に新スタジアム、莫大なお金がかかるものばかり、ましてや新築で将来に借金を残すことばかりでは、若者は出て行ってしまいます。都心に近いのが静岡市のメリットであり、ここを最大限に生かし、名古屋、横浜、東京にない住みよさに力を注ぎ静岡型の住みよさをアピールして定住化を図ってほしいです。水族館、アリーナは不要。中央体育館、AOI、マリナートと中途半端な施設が存在している。通常の市民生活では毎日のように利用しないものにお金をかけるのはおかしく、上手に使い分けるべき。コンパクトな都市整備をして多くの市民が利用するものにお金をかけていくべきです。	人に優しいまちづくりは、静岡市が目指す「誰もが安心して暮らし、幸せを実感し、住み続けたいと感じられるまち」の実現に欠かせません。特に子育て世帯が安心して暮らし、こどもを育てられる環境整備は、定住促進に直結する重要な課題です。子育て支援や経済的負担の軽減など、安心してこどもを産み育てられる環境づくりが必要であると認識しています。 一方で、地域の稼ぐ力を高め、若者の雇用を創出し、経済を活性化することは、市民の皆さんが豊かに暮らすために不可欠です。アリーナやスタジアムなどの大型施設は、多くの人を集め、新たな経済活動を生み出すとともに、市域全体に波及効果をもたらします。こうした施設は、「地域の稼ぐ力」を高めるうえで重要な役割を果たすと考えています。
9	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	せっかく時代の趨勢に合わせた見直しの機会ですので、これだけ世界が大きく変化し地球環境が大幅に変わりつつある時代を踏まえて、ぜひ、ドラスティックに変幻自在なアイディアも盛り込んでください。唯一の方向性を示すのは、不確定要素の大きい時代にはお題目に見えます。今の静岡市なら、どこの地方も抱える問題に、静岡だから計画立案ができるだろうと期待しています！	静岡市では、AIの進展や地球環境の変化など、社会構造が根本から変わる「大変革期」にあることを強く認識しており、市民の皆さんに寄り添いながら、これまでの延長上にない新たな政策形成が必要であると認識しています。そのため、市民・地域社会・企業・大学など、社会全体の力による「共働・共創」により、社会課題の解決や新たな価値の共創が必要であると考えています。 4次総の見直しにおいても、この視点を踏まえた政策形成を進めるとともに、時代の変化に対応しながら、市民の皆さんとともに幸せを実感できるまちづくりを目指していきます。
10	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	魅力ある雇用や企業がないから大学卒業後に若者が流出してしまっているというデータはあるんでしょうか。一部上場企業も多数あり、雇用は十分あると思います。若者が流出するのは雇用ではなく静岡市そのものに魅力や価値を見出せないからだと思います。	静岡市独自の調査では、市内大学等を卒業した静岡市出身者の約39%が市外企業に就職しています。 その背景には、企業用地やオフィスの不足から、新規企業の立地や既存工場等の刷新・拡張が進まず、産業の新陳代謝が進まないことで、若者の雇用が創出されずとなってしまった現状があると受け止めています。 一方、若者の市外流出の要因については、雇用の不足だけでなく、都市としての魅力が低下し、若者が市の未来に魅力を感じないことも要因だと認識しています。 このような状況を改善するためには、「このまちは大きく変わる」と共感できるようなまちづくりを行うことが重要です。未来を担う若者が「このまちの未来は明るい」と夢を描き、希望を抱けるようなまちづくりを進めていきたいと考えています。
11	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	P4「静岡市の魅力」 本当に静岡は豊かな地域だと感じています。ただ、過度に成長志向になると、この豊かさの源泉である人のゆとりみたいなものが削られてしまわないか、は心配です。	静岡市が目指すのは、市民一人ひとりが安心して暮らし、幸せを実感できるまちです。その実現のためには、まず温暖な気候や美しい自然、歴史・文化といった静岡市ならではの魅力を大切にし、人々のゆとりや穏やかな暮らしを守ることが大切です。 その上で、市民が安心して暮らせる環境と、個人や地域が成長できる環境の両立が重要だと考えています。 静岡市の今ある魅力を大切にしながら、時代の変化にも柔軟に対応し、市民が安心をしながら豊かさや幸せも実感できるまちづくりを進めていきます。
12	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	P5「静岡市の明るい魅力を切り拓くためには」 規制緩和や成長投資は賛成ですが、すべてをそちらに振り切るのではなく、温故知新で、よい文化、心の温かさ、チャレンジを見守るゆとりは残していくようにみんなで話し合いたいです。ミニ東京を目指してほしくはありません。そのため、最終行の「このような新たなまちづくりを進めることで…」の文章に、「静岡市にいまとあるよいものを活かしつつ、新たな街づくりをすすめることで…」といったように、今までにあるものなかでもよいものは残していくような文章にしてほしいです。	静岡市では、成長や活性化を目指す一方で、地域に根ざした文化や人の温かさ、ゆとりある暮らしといった静岡らしさを大切にしたまちづくりを進めています。 ご指摘のとおり、都市の魅力は新しさだけでなく、すでにある良質な資源や価値を受け継ぎ、活かしていくことにもあると考えています。 そのため、4次総の見直しでは、静岡市が持つ多様な魅力や強みを最大限に活かしながら、新たなまちづくりを市民の皆さんと共に進め、静岡市の明るい未来を切り拓いていきたいと考えています。
13	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	「多くの人が住みたいと思えるまちにするために」 よそ者を嫌う傾向があること。自治会強制加入、消防団等都会に住んでいれば関わらなくて済むことに関わらなければいけない面倒な地域であること。教育のレベルが非常に低く、SAPIXや日能研などの大手塾がないこと、偏差値の高い私立学校や大学がないこと。よってまち全体としてのレベルが低く、優秀な若者から流出し、転勤族からも避けられる地域になってしまって、すでに手遅れになってしまっている。前知事のおかしな言動やイスラム教徒の土葬墓地があつたり、ハラール対応の給食を導入したりと頓珍漢なことばかりして静岡に対して他都道府県からの印象が非常に悪くなっていることも考慮したほうが良いと思う。なぜ流出し、また魅力があるはずの土地に流入してこないのか、今一度検討されることを願います。	静岡市では、多様性の尊重や教育環境の充実、魅力ある仕事の創出に取り組んでいます。地域コミュニティの維持は、市民が安心して暮らすために不可欠ですが、人口減少や高齢化が進む中、担い手不足や活動の負担増大といった懸念が顕在化しています。このため、DXの活用等により誰もが無理なく参加できる仕組みづくりを検討しています。 また、質の高い教育は住みたいまちの重要な要素であるため、大学など研究機関との連携を通じた教育の質の向上が重要だと考えています。近年は留学生をはじめ外国人の方も増えており、誰もが暮らしやすい環境づくりを進めています。今後も、未利用地の活用や企業誘致などを強化し、若者や多様な人材が定着し、地域に活力をもたらすまちづくりを推進していきます。
14	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	私は1944年生まれで静大工学部を卒業し大阪の大企業に就職し定年を間近に控え、静岡市に戻りました。当時の仲間は私を含めて90%以上が静岡を離れて東京、大阪に散っていました。でも帰ってきたのはほとんどいません。理由は現地に根付いてしまったからです。そういう人たちはいっぱいいます。この人達にSNSを使って一度は静岡を出た人に静岡を発信し続ければ、多分私のように帰ってくる人がいると思います。	静岡市では、地方移住に興味のある東京圏などの県外在住者に向けて、SNSを使った移住補助金や移住セミナーなど移住支援の取組など情報発信を行っています。そして、SNSによる情報発信をきっかけに静岡市に移住した方もいます。いただいたご意見のとおり、SNSは、静岡市の魅力や移住支援の取組を周知するための有効な手法だと考えています。 引き続き、静岡市への移住につながる情報発信に取り組んでいきます。
15	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	人口減少問題は減り始めたら、もう止まりません。回復した自治体ありますか？このプロジェクトチームの皆様、増やすことだけ考えていませんか。減ったら減った人口でやっていかなければいけなくなることを想定されるほうが現実的だと思います。移民で数だけ増やしてヨーロッパのように取り返しのつかないような状況にされるのは断固反対です。少数精鋭、機械化、合理化で切り抜けるべきかと思います。	ご意見のとおり、日本全体で人口が減少する中、人口を増加させることを難しいと認識しています。 一方、日本全体の人口減少は2008年から始まりましたが、静岡市では1990年から人口減少が始まっており、他の都市よりも加速的に進んでいます。そのため、このスピードを緩和する必要があると考えています。 それと同時に、将来の人口規模を見据え、行政サービスや都市構造の最適化を進めるとともに、多様な人材が活躍できる環境を整える必要があります。 近年増加する留学生を含む多様な人々が安心して暮らし、地域に根ざして力を発揮できるよう、誰もが住みやすいまちを目指して、柔軟かつ現実的な政策を検討していきます。

No.	分類 (現行4次総)	資料に対するご意見	ご意見に対する静岡市の考え方
16	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	<p>企業立地はいいことで今までになかったことです。ですが、立地して交流人口を増やすのではなく、定住人口を増やすべきでそのために何ができるか、その課題は何かを追求してほしいです。とにかく物価が高いことが上げられます。静岡市に住むのは家賃や物価が高いから藤枝や沼津、長泉、場合によっては浜松に拠点を置くかたもいます。定住しやすい施策と住んだ人には、住みよい街、優しい街に、市民に寄り添った街作りが必要です。ハード整備ばかりでは便利にななりません。そこにシフト的なサービスがあるからこそ成り立ちます。静岡はいいところです。気象、日照、お水、防災、交通、鉄道、都心部への近さ、町並み、自然……数は数え切れないほどです。もっと市役所職員が静岡市を好きになって地元を愛してほしいです。期待しています。</p>	<p>ご意見のとおり、定住人口の増加には企業立地だけでなく、住環境の整備も重要な課題です。市の調査では、静岡市は近隣市町に比べて地価や家賃が高く、このことが満足度を下げる要因となっています。</p> <p>一方で、静岡市では人口減少に伴い、空き家が増加しています。こうした既存ストックを有効に活用し、住みやすい住環境を整えていくことが重要だと考えています。</p> <p>さらに、生活の満足度を高めるためには、健康、子育て、教育、交通、自然環境、防災対策、地域コミュニティといったソフト的なサービスの充実も欠かせません。こうした取り組みを進めるためにも、市職員一人ひとりが静岡の魅力を再認識し、市民とともに歩むまちづくりを進めていきます。</p>
17	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	<p>資料にある通り、大学卒業時に約40%が市外へ流出しているのは極めて深刻です。これは単なる雇用数の不足ではなく、子育て世代にとって「安心して働き続けられる環境」の不足が要因だと感じます。駅周辺にオフィス・保育・学童を近接させた都市更新や、フレックスタイムやリモート勤務に対応する企業を市が積極的に紹介・支援するなど、働き方の“質”を高める取り組みが必要です。札幌市はU-Iターン就職センターを通じて、都市部で経験を積んだ人材の地元就職を促進しています。静岡市でもU-Iターン支援と職住近接の都市設計を組み合わせ、若者が「戻りたくなる」街を実現すべきです。</p>	<p>静岡市では、フレックスタイム制など柔軟な勤務制度を実践する企業を表彰し、その取組をHPや冊子を通じて発信することで他の企業への取組拡大を図り、子育て世代をはじめ様々な人が安心して働き続けられる環境の整備を進めています。また、就職支援情報誌「静岡で働く。」などによる情報発信や、大学生と企業との交流機会の創出により、市内企業の認知度向上にも取り組んでいます。しかし、ご意見のとおり、就職を機に市外へ転出する若者が多く、Uターン率も低いことが課題となっています。</p> <p>そこで、U-Iターンの促進に向け、今年度、首都圏の大学生が市内企業の課題解決に取り組むワークショップを実施し、市内企業の認知度向上に取り組みます。さらに、働く若者の生活環境の向上に向けて、市と企業が連携して奨学金返還を支援する制度を創設しました。</p> <p>また、駅周辺に展開する中心市街地等の社会の拠点となる地域においては、仕事や住まいに加え、買い物や学び、遊び等多様な機能が近接するまちづくりが必要だと考えています。</p> <p>いただいたご意見を踏まえ、若者が住みたい・働きたいまちの実現に取り組んでいきます。</p>

No.	分類 (現行4次総)	資料に対するご意見	ご意見に対する静岡市の考え方
18	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	よく政令市で比較をする記事を多く見ますが、もともと人口規模からもギリギリで政令市に移行したと思います。熊本や浜松とは違いますし、静岡版政令市で他市にない政令市でよいと思います。もっと分析を重ね比較してどうかではなく、市民が何を求めているのかをしっかりとキャッチしてほしいです。規制を緩和したり解除して大きな企業が来てもやはり、物価が高いのが静岡市です。アパート家賃、スーパー、交通費など都心と変わらない生活費となっています。企業誘致とともにこういった物価対策を静岡市版として取り組むことで生活しやすい街作りとなるのではないかでしょうか。例えば、18歳まで通常医療費が無料、水道代を値引き、ごみは無料など。	静岡市では、政令指定都市の中でも独自の地域特性や市民の声を重視し、静岡市らしいまちづくりを進めています。近年のアンケート調査でも、転入者・転出者とともに「物価が高い」との声が多く、特に家賃や生活費が近隣市町より高いことが課題と認識しています。このような課題を受け、空き家の活用による住みやすい住環境の提供や国と連動した物価高対策など、市民の実感に寄り添った対策を検討していきます。市民の皆さまの声を丁寧に受け止め、誰もが安心して暮らせるまちを目指します。
19	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	提言:『静岡市公式アンバサダープログラム』の創設を  若者の情報収集はSNSが中心となっており、20代におけるSNS平均利用時間は平日で約79分、休日で108分に及びます(総務省調査)。 多くの自治体では、地元出身のインフルエンサーを公式に起用して地域の魅力を発信する動きが拡大しています。こうしたインフルエンサーには、共感性が高くなりアルな発信による影響力が期待されます。 ただしSNSで話題を起こすだけでは「一過性」のバズに終わるリスクがあります。「知る→行く→関わる→定着する」循環をデザインすることが不可欠です。 SNSはコスト効率が高く、双方向の対話も可能であり、自治体の支援制度や地域での暮らしの具体像を伝え、移住希望者との信頼構築に役立ちます。 したがって、静岡市として公式に『静岡市アンバサダー』制度を立ち上げ、公募で若年層のインフルエンサー(=地元密着型SNS発信者)を起用することを強く提案します。	ご意見のようなSNSでの情報発信において、インフルエンサーの起用により、そのファン層に情報発信を行うことができます。そのため、例えば地方都市に興味がある東京圏の人をフォロワーとしているインフルエンサーを起用すれば、移住地としての静岡市の魅力や支援制度、暮らしの具体像を効果的に情報発信することが可能です。 他の情報発信方法とも比較しながら、SNSを活用したインフルエンサーの起用など、効果的な方法での情報発信を行っていきます。
20	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	生きづらい世の中で皆で助け合い支え合いをしなければならない。助け合いはきずなが前へ進む力になる。弱きを助けるのが、強く生まれた者の使命である。	静岡市のアンケート調査によると、市内の女性は経済的不安や雇用の不安定さ、仕事と家庭の両立の難しさ、賃金格差、社会的・心理的な障壁などが複雑に絡み合い、生きづらさを抱えています。 高齢者も健康や介護、経済的な心配、孤独、デジタル化や移動の困難など多様な生きづらさを感じています。 留学生や外国人も、言葉の壁や情報不足、行政・医療・教育へのアクセスの難しさ、雇用や住宅探しでの不利、孤立感などに直面しています。 こうした方々が安心して暮らせるよう、社会全体で助け合い・支え合う仕組みが不可欠です。誰もが安心して暮らせるまちを目指し、地域全体で支え合う社会づくりを進めています。
21	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	市の開発に、昔の遺跡発掘研究などといった後向きの案件は除外すべき。すべて未来志向とし、税金負担の軽減、公務員の2割削減、公務員給与の削減をして、スタートアップ事業に全面支援を傾注すべき。	政策を実行する際には、静岡市が有する資源を効率的かつ効果的に運用するとともに、社会全体の力を最大限に活かし、社会に大きな便益をもたらすことが求められます。歴史や文化資源は地域の魅力の一部であり、次世代に継承すべき重要な価値と考えています。 同時に、静岡市の喫緊の課題は若者の雇用創出であり、産業の新陳代謝を生み出す原動力として、スタートアップなど新たな価値を生む取組を推進していきます。また、行政運営の見直しや財政の健全化にも取り組み、最小の経費で最大の効果を生み出せる行政経営を行っていきます。
22	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	書かれていることは、自分も昔、静岡県知事との対話で提議したことがある。が、市とは住民対話の場さえ設けられていないのではないか。沈滞した市民をどう目覚めさせるかをさぐる。	静岡市では、多くの市民の皆さんに関わる計画の策定や、関心の高い事業の実施に当たっては、市長と市民の対話の場を設けるとともに、パブリックコメントや市民ワークショップなどの方法により、市民の皆さんの意向や考えを聞いています。ご意見のとおり、今後も、事業や施策に合わせて「市と市民の対話の場」を設けるとともに、効果的かつ適切な方法で市民の皆さんの意向や考えを聞いていきます。
23	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	市長と市民の対話の場さえない。市長は市の経営者のつもりでいるのだろうか？優等生でやる気のない公務員の感覚を捨てて、生きた政治家としての感覚を持つべきじゃないか。沈滞の中に安穏としているべきでない。	静岡市では、多くの市民の皆さんに関わる計画の策定や、関心の高い事業の実施に当たっては、市長と市民の対話の場を設けるとともに、パブリックコメントや市民ワークショップなどの方法により、市民の皆さんの意向や考えを聞いています。ご意見のとおり、今後も、事業や施策に合わせて「市と市民の対話の場」を設けるとともに、効果的かつ適切な方法で市民の皆さんの意向や考えを聞いていきます。
24	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	静岡市で、今育っている子、育てている家庭の意見や願いはあまり反映されないのかなという印象です。静岡市の良さは若者たちも知っていると思います。丁寧に意見を拾い上げ、まずは今の若者がこうだったらいいな、住み続けたいな、戻ってきてみたいなど思える計画であることを願っています。そういう意見を拾い上げる機会を広く頻繁に持つことを期待しています。	静岡市では、若者や子育て世帯を含む多様な市民の声を受け止め、まちづくりに反映することが重要であると認識しています。 今回のパブリックコメントでも、子育て世代の方から、子育て世代が安心して暮らせる環境の実現や、仕事と育児を両立できる環境づくりを求める声を多くいただきました。 若い世代や子育て世帯が「住み続けたい」「戻ってきたい」と思える静岡市の実現に向けて、市民の皆さまからのご意見を今後も丁寧に受け止めていきたいと考えています。市民の皆さまの声がより良い静岡市の実現につながるよう、引き続きご協力をお願いします。

No.	分類 (現行4次総)	資料に対するご意見	ご意見に対する静岡市の考え方
25	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	「共創」というワードは非常に重要だと思います。市民が自らの手で価値を想像できた時、愛着と誇りが生まれると思います。ぜひとも、この「共創」を中心とした政策を立案していただきたいと思います。	共創によるまちづくりの主役は、行政だけでなく、市民・地域社会・民間企業・大学など多様な主体です。人口減少や社会課題が複雑化する中、行政だけで解決することは困難であり、市民一人ひとりが主体的に関わることで、地域に根ざした柔軟で持続可能な解決策が生まれます。こうしたプロセスを通じて、市民は自らの手で価値を創造し、まちへの愛着と誇りを育むことができます。行政はその土台を整え、下支えするとともに結果が出るまで伴走し、共創・共創によって社会課題を解決していきます。市民一人ひとりがまちづくりの主役となり、愛着や誇りを持てる地域社会の実現に向け、「共創」を中心に据えた政策形成を行っていきます。
26	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	このまま定住人口が減少していくと市税収入が減るということですが、公共施設の維持が重荷になり市民サービスの縮小につながる時再がありました。確かに人口が減少し生産されなくなれば税収は減少していきます。それがわかっているのに、水族館やアリーナを莫大な費用をかけて建設するのはどうかと思います。今なら見直しができるはずです。止める勇気が必要ではないでしょうか。移動人口のみでのハード整備を見込んで、後々定住した市民に借金がのしかかるようなことはしてはいけないと思います。是非、見直しをしてほしいです。そのお金で、小学校や保育園のトイレ改修や執務室や体育館の空調整備をしてはどうでしょうか。市民生活に直結する施設が弱っては、誰もが住みよいとは感じません。静岡市ってすごいなって思える今のライフラインには今まで以上に力を入れてほしいです。	ご指摘のとおり、静岡市では多くの市有建築物が築40年以上を経過しており、計画的な施設改修が必要です。小中学校のトイレ改修や体育館への空調整備などを進める必要があります。一方で、新たなまちづくりへの投資を怠れば、人口減少は加速し、将来的な税収減にもつながりかねません。静岡市の持続的発展には、地域の稼ぐ力を高める投資が不可欠です。アリーナのような大規模施設は、単なるハード整備ではなく、雇用や経済活動を生み、来訪者増加で地域価値を高めます。これにより民間投資が促進され、周辺のまちづくりにも波及効果が期待されます。財政健全性を保ちながら、将来の静岡市のために必要な投資を行っていきたいと考えています。
27	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	新スタジアム構想は、試合観戦の場にとどめるのではなく、日常的に利用できる市民拠点として設計することが望ましいと考えます。芝生広場や親子カフェ、託児室、学童機能を併設すれば、子育て世代が平日も自然に訪れる場所となり、スポーツ観戦以外の利用価値が高まります。そのためには、建設段階から市民参加型ワークショップを実施し、多様な世代の声を反映させることができます。京都市の「サンガスタジアム」や北九州市の「ミクニワールドスタジアム」は、市民の意見を反映した複合施設として成功しています。静岡市でも共創のまちづくりを体現するスタジアムを実現してほしいです。	令和7年8月15日に、静岡市はENEOS株式会社と「静岡市清水区袖師地区を中心とした地域づくりの推進に係る合意書」を締結し、静岡市とENEOS株式会社は共に清水製油所跡地における土地利活用の具体的な検討を行っていきました。現在、地域づくりの中核施設としてふさわしい機能を検討するとともに、周辺用地にどのような機能配置が望ましいか等について検討を行っていきます。中核施設の検討にあたっては、新スタジアムは有力な候補の一つではあるものの、何を整備するかは今後の検討次第となります。仮に中核施設をスタジアムとする場合、スタジアム単体では採算性を出すことが難しいという課題もあるため、周辺施設(商業施設や宿泊施設、公園、こどもの遊び場等)も含めたスタジアムパークシティという形での整備が望ましいと考えています。なお、これらの整備については民間投資を前提としています。市民全体の利益につながるまちづくりの検討を進めていきます。
28	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	新たなサッカースタジアムいりません。サッカーもラグビーもエコパで充分だと思います。いつまでも過去の栄光に縋ってサッカーの街は恥ずかしいです。それよりもエコパで開催されるイベント向けの宿泊先の慢性的な不足を静岡市内で補つたほうがいいと思います。そして、災害に強い街づくりで人口減少を乗り切るしかないと思います。	令和7年8月15日に、静岡市はENEOS株式会社と「静岡市清水区袖師地区を中心とした地域づくりの推進に係る合意書」を締結し、静岡市とENEOS株式会社は共に清水製油所跡地における土地利活用の具体的な検討を行っていきました。現在は、地域づくりの中核施設としてふさわしい機能を検討するとともに、周辺用地にどのような機能配置が望ましいか等について検討を行っていきます。中核施設の検討にあたっては、新スタジアムは有力な候補の一つではあるものの、何を整備するかは今後の検討次第となります。仮に中核施設をスタジアムとする場合、周辺施設(商業施設や宿泊施設、公園、こどもの遊び場等)と一体的に整備し、スタジアムパークシティというまちづくりの観点での整備や望ましいと考えています。なお、これらの整備については民間投資を前提としています。一方、IAIスタジアム日本平(清水日本平運動公園球技場)は、1991年に旧清水市が整備した公共施設です。築30年以上が経過したことによる施設の老朽化や交通アクセスの悪さなど、様々な課題を抱えていることから対応を迫られています。現在は、大規模改修を行うか新設を行うかの2案について検討しており、現時点での方針は未決定です。清水駅東口の土地利用の検討と、IAIスタジアム日本平の方針決定を同時進行で進め、市民全体の利益につながるまちづくりを進めていきます。
29	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	人口は増えた方がいい、それに対する対策を静岡市とした方がいいことはわかります。ただその基本を土地の使い方、企業の誘致、若い人の定着にフォーカスをあてすぎではないか、と思います。もちろん若い世代が静岡市で子どもを育てたいと思う思いきった助成金は必要だと思います。	静岡市では、「誰もが安心して暮らし、幸せを実感し、住み続けたいと感じられるまち」を目指し、多世代が安心して暮らせる環境づくりに取り組みます。人口減少対策としては、土地の有効活用や企業誘致、若い世代の定着支援に加え、住宅支援や子育て環境の充実など、幅広い施策を展開します。これらの取組を通じて、多様な世代が安心して暮らし、幸せを実感できる静岡市の実現を目指して、今後も最適な人口減少対策を進めています。
30	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	「子育て」「子どもをめぐる環境の改善」に目を向けていただけすることは大歓迎で、とても大切な転換であると感じます。他方、政策集型から成果志向型への転換を謳っていますが、例として、静岡駅付近の再開発のような構想が唐突に謳われているのがよくわかりません。目標とズレた形でのコンパクトシティ化が透けて感じられます。成果志向型のように、数字で成果を測ろうとすると、おのずと多数決の論理が働きやすくなる危険性が生まれます。そもそも数字はその扱い方でどういうふうにも見せられるので、それだけを指標とするのはいかがかと思います。子育て環境の充実は、都市部だけに偏らず、全ての市内の子どもたちに平等に与えられなければなりません。「誰も取り残さない」という側面が削られて「田舎の切り捨て」にならないように、切に懇願いたします。	「誰もが安心して暮らし、幸せを実感し、住み続けたいと感じられるまち」を実現するためには、若者が魅力のある仕事に就き、将来に希望を持てることや、こどもを持ちたいと希望する人にはその希望が叶えられることが重要です。静岡駅付近の再開発の話は、これまで商業中心だったエリアに住宅やオフィスを備えることにより、中心市街地で仕事も買い物も、子育てもできるような魅力的なまちづくりをしていく必要があるという事例として記載しました。子育て環境の充実については、都市部だけでなく市内すべての子どもたちが等しく支援を受けられるよう、「誰も取り残さない」という視点を大切にしています。今後も、市民の皆さんと目指すまちと暮らしの姿を共有しながら、より良い計画となるよう努めています。

No.	分類 (現行4次総)	資料に対するご意見	ご意見に対する静岡市の考え方
31	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	<p>御幸町図書館でチラシをみて応募します。昨年秋に、大学卒業以来、数十年ぶりに静岡市に、東京から引っ越しをしてきました。</p> <p>○第4次静岡市総合計画について</p> <p>HPで資料をみて、私には特におかしいところはないように思います。どれももつともあると思いました。成果志向というのは、表現の問題ではないかと私自身は思いました。</p> <p>ロシアとウクライナの戦争、イスラエルのガザ地区攻など、多くの一般人の命が奪われています。これらの惨状をニュースで見るにつけ、平和であり続けるために個人として何ができるか、ボートと生きてんじやないよと思ひます。行政としても内向きでなく外に向けたはたらきかけや、発信をさらにすすめてはと思ひます。</p> <p>静岡市は温暖でのんびりして人当たりもやわらかい人が多いように感じます。静岡県の中心という歴史や文化も感じますし、良いところだと思います。変わらない平穏を望むなか、「世界に」と目標を打ち出したからには、ちょっと突き抜けてもいいんじゃないかと思います。</p> <p>さらに歴史文化、スポーツ、長寿、国際交流などのソフト面での長所や課題を観光、農業、地域交流やものづくりなどの産業に結びつけていくことをさらに強く出してはどうでしょうか。試行錯誤、いろいろチャレンジできる場を広げていくことで、活力も生み出せると思います。</p> <p>・しづおか歴史検定(古代・中世編、江戸時代編、近・現代編)日本人用、外国人用、昭和世代用(高齢者の脳トレになるかも)</p> <p>内容は、静岡市だけに限らず、静岡県域におよぶ(静岡県の他地域との理解を深める)等、何年かに1回実施(オンラインを含む)全編合格者には、静岡市名産品から歴史博物館の招待券などをだし全国的にアピールし参加してもらう。まずは大河人気のある江戸時代からがいいかも。出題も歴史に興味ある市民選抜と専門家のタッグで。(何年か前に中学生がつくった検定の本を図書館でみましたのでそれから発想)</p> <p>・しづおか富士山お茶会</p> <p>平和であることは、相互に信頼し心落ち着けてお茶を楽しめる状態だと思います。お茶どころを誇る静岡市から、富士山がみえるような地点(日本平、三保、用宗海岸などのほか隠れ富士山スポット)を選んで、観光客を含むお茶の魅力のアピールと、お茶ってそもそもどうできるの?静岡からアメリカに渡った緑茶など歴史理解も踏まえて、イベントとして開催。静岡市の交流国である、ベトナムのフエ、フランスのカンヌ、アメリカのオマハなどのティータイムと併せて各国のお茶うけ品も紹介する。さらには中国、韓国、アジア近隣諸国とのお茶を通じた交流も推進。各国間の緊張をお茶で緩和していくという茶道のこころも追及。</p> <p>・サイクルシティのさらなる推進</p> <p>静岡はサイクルシティの推進地であり、市内各地にレンタサイクルが設置されているのをみていいなあと感じました。環境面でも健康面でももっと自転車利用がしやすくなるといつてはいます。とはいっても、朝夕に限らず、幹線路の交通量は多く感じます。あと、高齢者の免許返納後の乗り物として、お買い物来店者には、値引割引とか、バランスのとりやすい三輪、四輪自転車の購入補助などをして、免許返納後の生活レベルの低下を防ぐことにもつなげていいってはと思います。</p> <p>・ユニバーサルモデルのリフォームやデザインを取り入れたものづくり、建物づくりの推進</p> <p>たとえば、飲み込みが悪くなつたうえ、手の動きが悪くなつた方向けへの軽量の木(竹)製の取つた付きの器、むくみが足に出てきても履くことができる足幅調整が可能な靴、立ち上がりがしやすいトイレ補助具など、高齢者、障がい者などが使いやすく、しかもデザイン的にも良いものをしづおかモデルとして認定。静岡市の木材や竹材を有効利用して世界に発信。商店街も昭和レトロ感を残し、そこに先端設備をそなえ、減災、防災のリフォームをして蘇らせる。空き団地などのリフォームもすすめて、高齢者混在型、農園併設型など新しいスタイルの住居をつくっていく。</p> <p>・清水の商店街を国際化</p> <p>歩いて楽しむにいいゆつたり感と、神社や景色もそこここで楽しめ、昭和レトロ感も味わえる面白さがあると思います。空き店をお試して週借りで出店できるようにする。江戸の風情が味わえるスポットを設け、海外からきた観光客も使いやすい休憩所を設ける。まず駅で降りてみて、観光案内的なものが目に入らず、道も入り組んでいるので、奥の方までは行きにくい。個人商店が、それぞれ個性があつて面白いところが多いので、さらに多様なお店が並ぶといいと思います。高齢者も歩きやすいので、お買い物ツアーレースに来てくれるようになるといいのでは。これから増える団塊世代シニア好みのお得感のある品々が手に入って、外国人にはおみやげになるものが気軽に買えるとか特長ある商店街としてアピールするところになっていくといいと思います。</p> <p>以上、思いついたものをあげてみました。よろしくお願ひします。</p>	<p>ご意見を頂いたように、静岡市は、温暖な気候や人の心の温かさ、歴史や分野など多彩な魅力を有しています。このような多彩な魅力を観光、経済、まちづくりに活かしていくことで、様々な可能性が広がり、市全体の活性化につながっていきます。頂いた個別のご意見に対する政策の方向性について、記載させて頂きます。</p> <p>・しづおかの歴史への関心の向上</p> <p>歴史的建造物や史跡等の保存・活用に住民や学生等が関わる機会を創出することで、地域で継承されてきた歴史文化に関心を持ってもらい、歴史文化を守るための担い手を育成していきたいと考えています。</p> <p>・お茶を活かした魅力の発信</p> <p>茶畠ガイドの育成や体験型プログラムの充実を通じて、外国人観光客に人気の高いお茶をコンテンツとしたツーリズムを強化していきます。また、海外でのお茶人気を捉え、海外販路の開拓や商品開発など、海外でお茶を販売する仕組みを構築していきます。</p> <p>・生活上の移動手段の確保</p> <p>静岡市では、生活上の移動手段の確保に向けて、パルクルなどの自転車ポートの設置や、路線バスに加え、公共ライドシェア、AIオンデマンド交通の導入を進めています。これにより、免許返納後も安全・快適に移動できる環境の実現を目指し、都心部から中山間地域まで多様な移動ニーズに対応した交通システムを拡充していきます。</p> <p>・清水の商店街の魅力化</p> <p>清水の商店街の再生に向けて、清水都心では多くのクルーズ船が寄港し、外国人観光客が多数訪れています。清水駅東口の清水製油所跡地を活用し、魅力あるエリアを形成することで、地域経済の活性化を図ります。また、清水駅前商店街についても、こうした需要を取り込み経済効果を最大化するため、アーケード内に滞留空間を設け、様々な体験の機会を提供することで、訪れる方が楽しめる商店街を目指していきます。</p> <p>このように、市の魅力を活かした様々な取組を進めています。いただいたご意見も、今後の施策検討の参考とさせていただきます。</p>
32	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	<p>「人口減少とその原因」について、企業用地の供給不足、その結果の若者の仕事や雇用の減少に加えて、「仕事と育児がしやすい環境づくり」についても一言言及いただきたいです。</p> <p>p5「5.静岡市の明るい未来を…」にて「仕事と育児を両立できる環境づくり」について触れていただいており、特に女性にとっては大変重要なポイントだと思います。ぜひ要約版?のp2にも記載をお願いします</p>	<p>アンケート調査によると、仕事と育児の両立に負担を感じる方は少なくありません。特に女性の場合、こどもを生み育てたいと望みながらも、現実的な不安からためらいを感じるケースも見受けられます。仕事と育児を両立できる就業環境や子育て環境を整えていくことで、子育て世代が、安心してこどもを生み育てられるまちにしていくことなども重要です。</p> <p>このため、見直し後の第4次静岡市総合計画の中でこのような考え方を記載ていきたいと考えています。</p>

No.	分類 (現行4次総)	資料に対するご意見	ご意見に対する静岡市の考え方
33	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	「静岡市は、温暖な気候、美しい自然、そして歴史や文化に恵まれた、暮らしやすく魅力的なまちです。」といった根拠となるアンケート結果などはあるのでしょうか。また、市場のニーズにマッチしたセールスポイントなのでしょうか。未活用土地がある→新規に活用できる資源があるという論法の方が筋が通るかと考えます。	静岡市は、温暖な気候や、南アルプスの山々と駿河湾に囲まれた美しい自然に恵まれ、四季折々の美しい風景が広かり、今川・徳川時代から続く歴史的な街並みや文化を有するまちです。また、新幹線や高速道路、港湾など交通インフラが充実し、首都圏・中京圏へのアクセスも良好な交通の要衝となっています。この立地により、人や企業が集まりやすく、今後さらに都市の成長につながる大きな潜在力を有しているため、その強みを活かしていくべきと考えています。未利用地の活用については、ご意見のとおりであり、新たに活用できる資源である未利用の土地をいかに有効に活用していくかが重要なポイントであると考えています。
34	4次総見直しの考え方や市政運営全般に関すること	市民の声を聞いて、市政に反映していただけと、これからも住み続けたいと思えるので、ご検討お願いします。	ご意見のとおり「市民の皆さん声を市政に反映すること」が市民の皆さん満足度の向上につながり、これからも静岡市に住み続けたいと思う方が増えるものと考えます。これからも市民の皆さんから寄せられた声一つひとつに丁寧に対応し、市民の皆さんの満足度の向上につなげていきます。
35	健康・福祉	「スタートアップなど新しい企業活動が活発になる土壤を整え…」とあります、就職氷河期で、かつ非正規の仕事にいたときのパワハラでメンタルをやられ、簡単な仕事さえ精一杯の私には、縁の無い話で遠く感じてしまう。だから、私の肌感覚ですが、静岡市は、接客や介護の仕事が多く感じますが、それには私には荷が重く、そのため、お金を貯められなくて、県外に出て働くという気力すら削がれてしまっている。	静岡市では、就職氷河期世代を含む働くことに困難を抱える方々を対象に、一人ひとりのニーズに合わせたきめ細やかな就労支援を行う「インクルーシブ雇用推進の取組」を進めています。この取組では、特定の業種に限定することなく、市内の幅広い企業・職種を紹介し、本人の希望も踏まえ、丁寧にマッチングを行うことで、困難を抱える方々の就職に繋げ、もって社会的・経済的に自立していくことを目指しています。今後も、この取組を継続していきます。
36	健康・福祉	市役所は独居老人が増えてその対応が更に大変になっていくと思われますが、資料にはそのことが一切触れられていませんでした。市役所の窓口で職員の臨機応変な対応で乗り切っているように見えますが、そろそろ限界に来ているのではないかでしょうか。	高齢者ひとり暮らし世帯の増加等により、家族・親族頼みの対応では困難なことが多くなっており、今後、こうした事態がますます深刻化することが見込まれます。こうしたことから、静岡市では、区役所窓口と地域包括支援センターなどが連携し、寄せられる相談に対して総合的に対応していくとともに、必要なサービスが行き届くようにきめの細かい支援を行っていきます。加えて、こうした市民の皆さんの見守りや、お亡くなりになられた後の死後事務など、終活支援を含めた包括的な支援体制の構築に向け、官民連携のもと各種取組を展開していきます。
37	こども・教育	「5.静岡市の明るい未来を…」にて「仕事と育児を両立できる環境づくり」について言及されている点、大賛成です。育児こそ静岡の穏やかで豊かな環境が適切で、首都圏と比べて強みを発揮できるポイントです。特に女性が、育児しながらでも働きたいだけ働くことを応援するまちになることで、首都圏からも人を呼び込む魅力になると確信します	静岡市では、働きながら子育てする保護者の負担が軽減されているまちを目指しています。そのためには、家事育児の負担軽減の取組や、子育て世帯が働きやすい職場環境を実現することが必要だと考えます。静岡市の魅力を活かしながら、仕事と子育てが両立できる環境を整備していきます。
38	こども・教育	静岡で生まれ育った人は、その魅力をよく知っています。私の身近な人たちは、進学や就職で県外へ出ても、戻ってくる人が多いです。人口増加を狙うなら、単身者や婚活を促すのではなく、子育て世代(既に家庭があり子供がいる家庭)を誘致するのが効果的だと思います。親にとって「子どもに優しい町」は何よりの魅力です。例えば、医療費や給食費、学費の無償化。さらに、駐車場付きで多目的に遊べる大型公園を整備すれば、日常的な暮らしの満足度は大きく向上します。加えて、キッザニアのような体験型大型施設があれば、遠方からも家族連れが訪れ、地域に経済効果をもたらすと思います。	静岡市では、経済的な不安を感じる子育て世帯が多くいます。ご指摘いただいたような、子ども医療費、学校給食費、学費の無償化は、経済的な不安を解消する大きな効果をもたらす取組だと考えます。また、公園の整備や体験型施設の設置は、子育て世帯にとって大変有意義な施設であり、市の魅力を向上させる取組だと考えます。一方で、これらの取組を実施するためには、多くの財源が必要となります。静岡市の財政にも考慮した上で、必要な取組について検討していきます。
39	こども・教育	子育て世代への支援を強化する動きは素晴らしい取り組みだと思います。ですが、これから結婚して子供を産む若者世代への支援がなければ、静岡市で結婚・出産は増えません。「静岡市内で結婚・出産すること」が一種の人生のアドバンテージになるくらいのサポートがなければ、東京・名古屋に挟まれたこの立地で若者の流出は止められません。また、そもそも静岡市の古い保守的な体制も今の若者の価値観と齟齬を生じさせていると感じます。	静岡市で子育てをしたいという、若者の希望を実現するためにも、今後も子育て支援を充実させていきます。特に、仕事と子育ての両立や、経済的な不安の解消、妊娠出産のための支援など、若者が安心して子育てできる環境を整えていきます。また、取組の検討に当たっては、より効果的な取組となるよう、若者を中心とした市民の皆様の声を丁寧に聞きながら進めています。
40	こども・教育	人口減少の問題に対して、子どもを育てたいと思える街づくりを目指している、としているのに、隣の市より、子どもの医療費が高かったり、3歳までの保育料が高かったり、お金のかかる市だなあ、と感じます。子育て世代へのフォローアップが必要だと思います。(子育てしていない人より)	静岡市では、経済的な不安を感じる子育て世帯が多くいます。ご指摘いただいたような、子ども医療費、保育料の無償化は、経済的な不安を解消する大きな効果をもたらす取組だと考えます。一方で、自治体だけで無償化を実施するためには、多くの財源が必要となります。国の動向を十分に注視しながら、財政も考慮し、必要な取組を検討していきます。
41	こども・教育	静岡市は静岡県内の他の市と比べても、子ども向けの施設が少ないと思います。温暖化によって4月～10月くらいまでは外で子どもを遊ばせることが難しい中、屋内で思いっきり遊ばせられる施設がないのが残念です。既存の児童館、支援センターだけではなく、赤ちゃんから小学生まで熱中症を気にせず遊べる屋内の施設をもっと増やして欲しいです。(藤枝市のれんげじスマイルホールのような)大きい施設でなくても、公民館などを活用して中規模の施設を増やすことはできないでしょうか。遊ぶ場所があれば安心して子育てできますし、静岡市に魅力を感じて住みたいと考える人が増えると思います。	猛暑や雨天の時に子どもが自由に遊べる場所を必要とする市民のニーズが高まっています。新たに施設を整備することは時間や建設コストがかかるため、既存の公共施設や地域・民間主体の居場所を活用したことでの遊び場機能の拡充の取組を行います。

No.	分類 (現行4次総)	資料に対するご意見	ご意見に対する静岡市の考え方
42	こども・教育	<p>～子どもをまんなかに、すべての世代が安心して暮らせるまちへ～</p> <p><b>基本理念</b> 「子どもと子育てを社会全体で支えるまち・静岡市」 すべての子どもが安心して育ち、保護者が安心して働き・暮らせる環境を整えます。</p> <p><b>重点施策</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>1. 子どもが使用する施設の充実</b> 【新設・改修】地域子育て支援センター・児童館の新設および老朽化施設のリニューアル 【安全性向上】公園・遊具のバリアフリー化および耐震対応の強化 【多世代交流】図書館や地域交流センターでの親子イベント・育児支援の拡充</li> <li><b>2. 給食費の無償化(小中学校)</b> 【段階的導入】まずは第3子以降や低所得世帯から無償化をスタート 【最終目標】市内全小中学生の給食費完全無償化を2028年度までに実施 【財源確保】市債・ふるさと納税型クラウドファンディングなどを活用し、安定財源を確保</li> <li><b>3. 子ども医療費の完全無償化</b> 【対象拡大】現行の15歳までの医療費助成を「高校卒業まで(18歳)」に延長 【全額補助】所得制限を撤廃し、すべての子どもが対象 【オンライン診療補助】遠隔地や夜間診療への対応費用も一部助成</li> <li><b>4. 子育て世帯への直接給付支援</b> 【子育て応援給付金(仮)】0～18歳の子ども1人につき年間3万円を支給(年1回) 【出産応援給付】出生時に10万円相当の支援パッケージ(現金 or ベビー用品)を配布 【緊急支援枠】ひとり親・低所得世帯向けの家計応援給付金制度を拡充</li> </ol> <p><b>財源と実現方法</b> 静岡市独自の財源確保に加え、国の地方創生交付金を最大活用 企業からの協賛・CSRを活用したパートナーシップ施策導入 「ふるさと納税」の返礼品代わりに「子ども支援寄附メニュー」を設定</p> <p><b>未来へのビジョン</b> 静岡市が「子ども・子育てにやさしい都市No.1」となることで、若年層の定住・移住促進、出生率の維持、地域経済の活性化をめざします。</p>	<p>静岡市は、「日本一安心して子どもを産み育てやすいまち」の実現に向けて、子育て当事者である保護者の目線や、こども・若者自身の目線から、取組を進めています。</p> <p>ご提案いただきました、4つのポイントは、社会全体で子どもと子育てを支えるために大変重要な取組であると認識しています。</p> <p>まず、1番の「子どもが使用する施設の充実」については、施設の老朽化や耐震化への対策を図り安全性を確保するとともに、こどもや保護者が利用しやすい施設、子育て世帯を中心とした幅広い世代の人々が利用できる施設を目指すことは大変重要だと考えています。</p> <p>そして、2番、3番、4番の「小中学校の給食費の無償化」、「子ども医療費の完全無償化」、「子育て世帯への直接給付支援」については、経済的な不安を抱える子育て世代に対して、有効な取組の一つであると考えています。</p> <p>一方で、これらの子育て支援策を実現するためには、多くの財源が必要となります。市の財政についても考慮した上で、必要な取組について検討していきます。</p>
43	こども・教育	<p>若者世代の就職を機とした人口流出について。データだけではわからない人口の移動があると思います。大学や専門学校で県外に行く際には、一時的な転居かどうかが未定のため、住民票を移さないパターンもあるのではないかでしょうか。高校とも連携をし、県外に進学を希望する、あるいは進学をした子の数値も資料に反映してはいかがでしょうか。</p> <p>また、進学の場合は流出というマイナスなイメージですが、市出身の若者の成長の機会ですので、現在の施策よりさらに背中を押してあげる制度の後押しがあれば、回り回って静岡市で子育てをするメリットとなり得ると思います。企業立地と同じくらいに18歳の子に対するサポートは必要なことだと思います。成長して、静岡市に帰ってきて欲しいというメッセージをぜひ出していただきたいです。</p>	<p>人口の減少に関する実績値のデータは住民基本台帳をもとに算定しており、進学時の居住実態を各世帯ごとに詳細に把握しデータとして裏付けることが困難な状況を鑑み、住民基本台帳での集計を行っています。</p> <p>また、静岡市の若者が進学や就職を通じて成長することは、地域にとって貴重な財産であると捉えています。進学を単なる人口の減少としてではなく、若者が経験を広げる機会として捉え、小中学校の段階から、地域に誇りを持ち、将来に生かせる力を育む教育を進めていく必要があると考えています。</p> <p>引き続き、いただいたご意見も参考にしながら、すでに高校段階で取り組んでいるキャリア教育や市内企業・地域との交流のほか、関係部局で行う既存の取組を効果的に実施することにより、「また静岡市に戻りたい」と思えるようなきっかけづくりにつなげていきます。</p>
44	こども・教育	<p>東京に出た大学生は静岡に帰って来る子が少ないと聞きましたが、関西含め地方の大学に進学した子は比較的静岡に帰ってきてる感じがします。</p> <p>大学生というよりも子供の頃から静岡市の魅力を伝えることが静岡市離れを防ぐ良い方法なのかなと思います。</p>	<p>静岡市では現在、地域や静岡市に愛着と誇りを持つ市民を育てるとともに、広く社会や世界に目を向けて、その発展に寄与する人材の育成を目指し、地域と共に学校周辺の特産品や伝統、文化等の特色を学ぶ「しづおか学」を市立小中学校の総合的な学習の時間等において市独自で継続して実施しています。</p> <p>今回いただいた貴重なご意見をふまえ、現在実施しているしづおか学を更に効果的に実施していくよう、引き続き努めています。</p>
45	防災・消防	地震・津波対策が依然南海トラフの想定に対して万全でないと感じています。	<p>静岡市では、南海トラフ地震や津波に備え、海岸部での水門等の整備、上下水道施設の耐震化などのハード対策を進めています。</p> <p>あわせて、DXを活用した情報収集・分析・発信体制の強化、実災害を想定した訓練の実施など、ソフト面の取組も強化しています。</p> <p>こうしたハード・ソフト両面からの対策を進め、想定外の事態にも臨機応変に対応できる体制づくりに取り組んでいます。</p>
46	防災・消防	・もう対策は取られていると思いますが、防災対策で、役所や介護や病院施設など人が多く集まるところの上の階に、水害で濡れないよう備蓄。	<p>静岡市では、避難所へ避難した方に配布するため、食料や飲料水、生活必需品などの物資を計画的に備蓄しています。保管場所については、浸水被害が想定されない場所に配置する等、災害時に確実に利用できるよう工夫しています。</p>
47	生活・環境	・去年、今年と静岡市が国内最高の暑さになったと思いますが、クーリングシェルターをよく見かけます。ですが、長居してはまずいかもと遠慮してしまう施設もあるので、協力していただける施設を拡大。	<p>ご意見にあるクーリングシェルターは、厳しい暑さの中、熱中症による被害発生を予防するために、今後ますます必要になってくる施設であると認識しています。各施設の利用時間内であれば、利用時間の制限はありませんのでお気軽にご活用ください。</p> <p>クーリングシェルターは、今年度28施設を指定しており、市内で計288施設となりました(R7.10月末現在)。引き続き民間企業とも連携しながら指定施設を増やしていくよう取組んでいきます。</p>
48	生活・環境	静岡市は、現状非常に評判の悪い、南アルプス登山のアクセスの利便性を高めることに关心はないのでしょうか。立山黒部のアルペンルートや黒部峡谷のトロッコ電車に比べると、全く手付かず放置されていて非常にもったいなく思います。夏のシーズンにどれだけの人が不便を感じながらも全国から南アルプスを目指していることか、改善を願います。	<p>ご指摘のとおり、南アルプスの登山口までのアクセスや交通手段の不便さが課題となっていることは市としても認識しています。</p> <p>一方で、南アルプスはユネスコエコパークに登録されており、自然環境の保全と利活用の両立が求められる地域です。そのため、大規模なインフラ整備は慎重な検討が必要であり、地域資源を守りながら利便性を高める方策については自然環境への影響を踏まえつつ、県や関係市町村、交通事業者と連携して進めていきます。</p>

No.	分類 (現行4次総)	資料に対するご意見	ご意見に対する静岡市の考え方
49	生活・環境	<p>総合計画の本編パンフレットを拝見いたしました。</p> <p>公共施設の改善をしていただけますと嬉しいです。</p> <p>公共施設:廃校の校舎ないし跡地をリノベーションして博物館にした事例をこの数年でよく見かけるようになった気がしますが、そもそものアクセスがあまりよくないため行ってみようと思えることが少ないです。芸術分野と重なってきますが、土地(ハード)の改善が難しい分、展示内容や地域一帯の関連事業(ソフト)を見直して来客数を増やす必要があるかと感じています。</p>	<p>静岡市では、廃校になった校舎や跡地を利活用する取組を進めています。今年度は旧井川小学校の校舎を活用し、南アルプスユネスコエコパークミュージアムを開館しました。ミュージアムは、南アルプスの自然環境や井川地域の文化を体感できる展示やシアター、地元食材を使ったカフェ、体験プログラムなどを備え、地域の魅力発信拠点となっています。アクセス面での課題は認識しており、体験コンテンツの充実、地域全体との連携による魅力向上に取り組みます。今後も、廃校等を活用し、来訪者が楽しめる仕掛けづくりを進めています。</p>
50	文化・スポーツ	<p>交流人口を増やしたい、というものについて、県外から流入してきた人への気遣いが無い県だと思います。</p> <p>とても内輪で固まっています、県外の人は肩身が狭いです。</p> <p>そのような人たちの交流の場になるように、社会人サークルを積極的に作って欲しいです。サッカーはたくさんあるけど、それ以外のスポーツが中々見つかりません。</p> <p>(地元のコミュニティではあるようですが、地元でなければ入れません)</p>	<p>静岡市では、多様なスポーツに触れる機会や、スポーツを通じた交流の場を提供することは重要であると考え、スポーツ施設において、地域の方に限らず、どなたでも参加できるスポーツ教室やイベントを数多く実施しています。これらの情報は、市の広報紙や各施設のホームページなどでお知らせしています。今後は、施設ごとに個別で発信しているスポーツ教室・イベント情報を一元化したプラットフォームを作成する予定です。また、スポーツ協会では、各種スポーツ団体の紹介も行っています。</p>
51	文化・スポーツ	<p>総合計画の本編パンフレットを拝見いたしました。</p> <p>芸術分野の拡充をしていただけますと嬉しいです。</p> <p>芸術分野:大道芸ワールドカップ、「まちは劇場」など、観客として路上で芸術に触れる機会も「ラウドヒル計画」など演者として芸術に携わる機会も両方が充実していると思います。私が周りの影響で幼少期から芸術分野によく触れていたので憶測になりますが、特に前者に関しては芸術にあまり関心がない層も取り込みやすく、芸術を身近に感じやすくなるかと思います。現に「まちは劇場」のパフォーマンスを見かけたことで新しい出会いもありました。拡充が難しくとも、このまま継続していただければと思います。</p>	
52	文化・スポーツ	<p>第4次静岡市総合計画(4次総)と、資料「第4次静岡市総合計画(4次総)の見直しの考え方」について、拝見しました。</p> <p>4次総の文化・スポーツ分野の項目に載っている、ラウドヒル計画に参加している者です。</p> <p>この活動は、静岡出身・在住の方々で構成されています。舞台やダンス、イベントなどにも関わりがある、静岡を代表する文化のひとつだと思います。まちは劇場を推進している静岡にとってはこの上なくぴったりなものだと思います。</p> <p>また、ラウドヒル計画で上演してきた舞台は、エスパルスや徳川家康、安倍川花火大会に加えて、芙蓉部隊や第五福竜丸事件など、静岡の文化や歴史に関わるものを題材としているものが多いです。これらの作品をきっかけに、より静岡の文化を知つてもらうことができるのではないかと思います。</p> <p>何よりも、参加しているみんなは、私も含めてとても楽しく活動しています。みんな静岡に関わりがある人たちだから、地元トーキや近くのお店などで盛り上がり、みんなで協力してより良い作品を作っていくことを目的として進んでいくことができるんだと思います。</p> <p>静岡にはラウドヒル計画が必要です。</p> <p>静岡には文化が必要です。</p> <p>よりよい静岡のためにも、何卒よろしくお願いします。</p>	<p>静岡市では、文化を通じて暮らしに心の豊かさを感じることができるまちづくりを実現するため、互いを受け入れ、誰もが文化に触れられる機会の創出や、文化を通じて生きる喜びを感じられる環境づくりを推進しています。</p> <p>また、今年度から「演劇による文化芸術創造拠点形成事業」を開始し、静岡市の大さな課題である人口流出、特に若者の流出に対応するため、演劇の特性を活かした取り組みを進めることで、「多様な表現への寛容性」を育み、地域の課題解決に貢献することを目指しています。</p> <p>今後も「まちは劇場」のより一層の推進により、市民のみなさんが気軽に文化芸術に触れる機会を充実させ、みなさんの創造活動が広がっていくよう取り組んでいきます。</p>
53	文化・スポーツ	<p>ラウドヒル計画に参加させていただいている者です。「静岡で演劇なんてできない！」と、若い頃上京しました。役者の夢破れて帰省した際にラウドヒルを知り、静岡で一般的な生活をしながらハイクオリティな演劇ができるということに感激しました。ラウドヒルがなければきっとまた静岡を離れて違う都市部で暮らしていました。</p> <p>また、ラウドヒルで障害を持つ人たちと共に演じたことで得た価値観に助けられました。私の娘が「発達障害の可能性がある」と診断された時のことです。夫はものすごく狼狽ましたが、私は「まあ、そんなこともあるか」と受け止めることができました。ラウドヒルで障害をもつ共演者たちと芝居をし、踊り、酒を飲み…一緒に日常を過ごしてきたことで「障害を持つ=人生終わり」という価値観が気づかなかいう間に壊されていました。そのおかげで私は娘が成長してどうなろうと大丈夫だと思っています。むしろ彼女の障害が「彼女の味」になるようなサポートをしていこう、と前向きに考えられています。</p> <p>障害があろうとなかろうと、役者として対等に向かい合えるこの環境はなにものにも変え難いです。これからもあり続けてほしいです。</p>	
54	文化・スポーツ	<p>ラウドヒル計画参加者です。ラウドヒル計画に出会って、ここ数年、静岡にいながらにしてプロの演出やダンスを習うことができてなつかつ脚本もオリジナルで本番では照明などもプロの舞台に立てることができます。こういうことをしている静岡市はすばらしいなと思っています。</p> <p>出会えたことも私の生きがいのひとつになっています。</p> <p>静岡市以外からの参加者もいますが、ラウドヒルを続けたいからと静岡市内に引越しをしたり、転職する人もいます。</p> <p>このようなことを続けることで若い人も東京等に大学にいっても就職は静岡でしようと考えたり、参加するために週末だけでも静岡に帰ってきたりというきっかけ作りになっているのではないかでしょうか？</p> <p>高齢の方でもこの活動を通して新しい家族が増えたようで会えるのが楽しみで活動がないと気力を失ってしまうとおっしゃっている方もいます。</p> <p>イベントや舞台芸術は人を元気にするチカラがあると思いますし、今後も活動を続けていってもらいたいです。</p> <p>もちろんさらに進化していくことも大歓迎です。</p>	

No.	分類 (現行4次総)	資料に対するご意見	ご意見に対する静岡市の考え方
55	文化・スポーツ	<p>魅力ある街づくりをすることで、人口減少を抑えるという考えは、至極真っ当だと思います。東京、名古屋に挟まれ、首都圏へ人口が流出しやすい立地でありながら、静岡に住む人を増やすために、静岡に誇りを持てる人を増やす政策を実行して欲しいと思います。誇りと愛着を持つために必要なのは、資料にもある「共創」であると思います。ただ消費しただけでは、誇りも愛着も生まれません。例えば、ありきたりな話ですが、アリーナのような箱物をつくる、東京で有名な団体を招いて公演やイベントを行う、など、ただ消費をするだけでは、そこに誇りは生まれないと思います。主催者が「これだけすごいものを作ったぞ」「これだけすごい人を呼んだんだぞ」という満足感だけ得て、市民に残るものは無いでしょう。そこに憧れる人がいても、結局東京に出てしまう。静岡に残る人を増やすことには繋がりません。</p> <p>商品やサービスを官民で共に生み出し、育てていくといったことは昔から行われていますが、市民の生活を本当の意味で潤し、豊かにしていくのは、文化芸術的な活動ではないでしょうか。</p> <p>日本における文化芸術は、なかなか注目されることはありません。予算も少ないと聞きます。しかし、ここに力を入れ、静岡独自の文化を発展させていくことが、この先の少子高齢化が進む日本で、静岡の価値を上げていくことには繋がるのではないかでしょうか。</p> <p>加えて、ただ予算をかけるだけではなく、明確なビジョンを持って事業を推進していくことが大事だと思います。</p> <p>大事だと思うのは、文化芸術の「自分ごと化」ではないのかと思います。</p> <p>文化芸術というと、高尚な趣味、と捉えられがちですが、生活に根ざした、もっと普遍的なものであることを市民に伝えていってほしいです。市民の自己表現の場を増やし、自分たちが静岡の文化をつくっているという「自覚」を芽生えさせることができます。静岡への誇りと愛着に繋がると信じています。</p> <p>第4次総合計画の資料に記載のあった「ラウドヒル計画」は、その典型的な例ではないかと思います。静岡にゆかりのある人たちが、静岡のために、静岡の舞台を創作する。役者は皆プロではない市民ばかりなのに、プロ顔負けのハイクオリティの舞台を10年以上創り続けています。</p> <p>「シズオカノーボーダー」という、障がい者と健常者の混成チームは、様々なバックグラウンドを持つ市民の共生の理想像を見せられているようです。</p> <p>こうした活動は、もっと静岡の誇りとして扱っていくべきだと思います。芸術性を押し付けず、同じ市民が輝く姿をみせることで、「自分たちにも何かできるんじやないか」と思わせてくれるのがとても良いです。SPACなどを見ても、そうは思いません。市民が高いレベルのことをやっている、というのが大事なのかもしれません。</p> <p>せとうち芸術祭は、かつて芸術と距離のあった島民が、「これは自分たちの芸術祭」と言ってしまうほど自分ごと化ができている好例で、今では全国的に有名で、数多くの来場者が楽しむ芸術祭となっています。静岡でも、ラウドヒル計画などがそういった位置にいってくれたら、とても素晴らしいことだと思います。</p> <p>何度も書きますが、大事なことは、地元の人達が「創る」ことです。外からコンテンツを買うことではありません。静岡のコンテンツを市民の手でつくる。そのコンテンツを外に発信し、静岡の存在感を高める。こうした活動が最終的に静岡の人口減を止めていくことに繋がるのではないかでしょうか。</p> <p>真に静岡のこと思った計画に修正されることを切に願います。</p>	<p>静岡市では、文化を通じて暮らしに心の豊かさを感じることができるまちづくりを実現するため、互いを受け入れ、誰もが文化に触れられる機会の創出や、文化を通じて生きる喜びを感じられる環境づくりを推進しています。</p> <p>また、今年度から「演劇による文化芸術創造拠点形成事業」を開始し、静岡市の大いな課題である人口流出、特に若者の流出に対応するため、演劇の特性を活かした取り組みを進めることで、「多様な表現への寛容性」を育み、地域の課題解決に貢献することを目指しています。</p> <p>今後も「まちは劇場」のより一層の推進により、市民のみなさんが気軽に文化芸術に触れる機会を充実させ、みなさんの創造活動が広がっていくよう取り組んでいきます。</p>
56	文化・スポーツ	<p>静岡の人口がなぜ減少するのか？ 都心へ行きたいと思うのか？</p> <p>私は、都心に行かなければ芝居は出来ないと思っていた。</p> <p>魅力的な舞台は無いと思っていました。</p> <p>でも、『ラウドヒル計画』の事を知り、関わらせてもらう事により、こんなに素晴らしい体験が出来て、市民レベルを超えていいるとまで言われる公演が出来、多くの方から楽しんでもらえる舞台が、静岡にある事を今とても楽しんでいます。</p> <p>私は東京でも芝居をし、SPACにも入団していましたが、こんなに素晴らしい活動や、体験が出来る『ラウドヒル計画』の様な環境は他に無いと思います。</p> <p>外国では感性を伸ばし、メンタルの癒しの為にも芝居は使われています。</p> <p>静岡の人は、そういうものに対してまだ距離がある様に感じてしまうのです。</p> <p>もっともっと芝居や舞台が身近に感じてもらえたなら良いのに…と何十年も思い、私は活動を続けています。</p> <p>多くの人に門を開いていて、静岡を舞台とした公演を行っているラウドヒル計画があるから、今は静岡に住み続けたい。そう思っています。</p> <p>だから、そんな芝居をやりたい市民が安心して、楽しく続けられる様な環境、ご支援をお願いしたいです！</p>	

No.	分類 (現行4次総)	資料に対するご意見	ご意見に対する静岡市の考え方
57	文化・スポーツ	<p>《まちは劇場》という考えをなくしてほしくありません。 私は学生時代静岡市こどもミュージカルに参加しました。お芝居の楽しさを知り踏み出した一歩でしたが、それ以上に得るものがたくさんありました。 引っ込み思案だった子が今では率先して年下の子の面倒を見ていたり、「協調性のない子」とレッテルを貼られてしまいそうな子は「自分を表現できる子」として前に出て活躍していたり、ステージの上では様々なドラマがあることを知りました。</p> <p>東京等プロの現場を知っている人に教わることの出来る環境は、静岡市こどもミュージカルだけではありません。 四次総にも載っている『ラウドヒル計画』も私にとって大きな影響を与えてくれました。 年齢性別障がいの有無関係なく総勢100名で作る舞台は圧巻で、文化芸術の必要性を実感しました。 こどもミュージカルやラウドヒル計画があるおかげで、私は静岡市に残り就職活動も市内に絞って就職しました。</p> <p>ラウドヒル計画のステージは文化会館だけではありません。 歴史博物館、日本平夢テラス、浅間神社、札の辻交差点でパフォーマンスを行いました。 パフォーマンスを通して施設を知ってもらったり、逆に私たちが静岡市の歴史について知ることが出来たりしました。</p> <p>舞台芸術は、プロになることだけが目的ではありません。 日常生活では関わらない人たちと非日常体験をすることで、人間として成長できる場所だと考えます。</p> <p>《まちは劇場》という考え方を利用しながら、【誰もが輝ける場所】を作っていく必要があるのではないか?と思ふ。 これに関しては、パフォーマンスすることだけが輝ける場所なのではないと思います。 写真が好きな人、スポーツが得意な人、観劇して非日常体験を味わうのが好きな人、色んな人が色々な方法で《輝くことができる場所》作りが大切です。</p> <p>その為に、固定化されたメンバーではなく、パフォーマーを公募したことは賛成です。 一部の勢力やジャンルのみならず多くの人が活躍できる場を作りたいです。</p> <p>また、市民が参加できる環境を整えて欲しいです。 静岡県民だが市外の人達で構成された環境ではなく、静岡市民の静岡市民による静岡市民のための場所も増やしていくて欲しいです。 見直しに書かれているように、県外や海外から人を呼ぶのも大切ですが、如何に今いる人たちが静岡市内に残ってくれるかを大切にして欲しいです。</p> <p>その意味では、ラウドヒル計画や静岡市こどもミュージカルは市民が輝く場所として、魅力的なものだと思います。 私は、出演するだけでなく出演者が気持ちよく参加できるようスタッフとしてこれらのプロジェクトに関わっています。 静岡市こどもミュージカルも、学生時代にボランティアでお手伝いしてくれた人や以前出演した人が今の子どもたちの為に集まって事務局を結成しています。</p> <p>市民にとって市民が住みよく、楽しく過ごせる環境を作っていることはとても素晴らしいことだと思います。 ぜひこれらのプロジェクトを利用しながら、見直しに役立ててください。そして、見直しがされてもこれらの文言は残してください。</p>	<p>静岡市では、文化を通じて暮らしに心の豊かさを感じることができるまちづくりを実現するため、互いを受け入れ、誰もが文化に触れられる機会の創出や、文化を通じて生きる喜びを感じられる環境づくりを推進しています。 また、今年度から「演劇による文化芸術創造拠点形成事業」を開始し、静岡市の大いな課題である人口流出、特に若者の流出に対応するため、演劇の特性を活かした取り組みを進めることで、「多様な表現への寛容性」を育み、地域の課題解決に貢献することを目指しています。 今後も「まちは劇場」のより一層の推進により、市民のみなさんが気軽に文化芸術に触れる機会を充実させ、みなさんの創造活動が広がっていくよう取り組んでいきます。</p>
58	文化・スポーツ	<p>成果が現れにくい、という事で以前の計画を変更なさるとの事ですが 色々な人に静岡市について、興味を持ってもらって、静岡で何かやってみようと思うのは、大事だと思います。私は静岡市には、住んでいませんが、静岡市が主催で文化会館が企画・制作のラウドヒル計画に参加しています。そこでは、普段出来ない経験や多くの仲間も出来て、とても楽しいです。日々の生活に生き甲斐を与えて、いただいている大切な物です。今後も残して欲しいです。</p>	
59	文化・スポーツ	エスパルスをもっと旧静岡市に親しませたい。	<p>静岡市では、エスパルスをはじめとするホームタウンチームと連携し、選手やスタッフ等が小・中学校でキャリア教育を行うなど、スポーツだけでなく、多様な分野の地域課題の解決に取り組んでいます。こうした取組は、全市民のエスパルスをはじめとする各チームへの親しみに繋がっていくと考えられるため、今後も継続して進めていきます。</p>
60	観光・交流	<p>観光資源はあるけれど、極端に観光地化されていないというのも静岡市の良さだと思います。東京・大阪・京都・北海道など、観光資源に恵まれすぎていると観光客で生活が圧迫されます。京都に住んでいた時はそれにたびたび悩まされました。 だからこそ、観光地として食い荒らされない分、住む人に優しい地域としての価値があると思いました。</p>	<p>静岡市では、令和6年12月に静岡市観光基本計画を策定し、「観光政策を通じた持続可能な『住んでよし、訪れてよし』の国際都市の実現」に向けて、計画に基づき観光政策を進めています。 同計画では基本理念に「市民生活の充実」を掲げており、ご意見にある「住む人に優しい地域としての価値」は観光政策を推進するうえで重要な要素だと認識しています。 いただいたご意見を踏まえ、市民生活の充実と来訪者の満足度を両立した観光政策を検討していきます。</p>

No.	分類 (現行4次総)	資料に対するご意見	ご意見に対する静岡市の考え方
61	観光・交流	賑わい作ってどうするのか、そもそも賑わいに対応できるのか。 温暖な気候のせいで、いわゆる働き者がいないことが賑わいを作り出せない要因になっていると思う。テレビでは終わったイベントの紹介しか流れず、これから始まるイベントの紹介はない。主要駅ではいつまでも終わったイベントのポスターが貼られている。イベント行つても昼前には主要商品売り切れ、終了時間前に片付け始め終了予定時刻には完全撤収。都会のイベントと比べたら雲泥の差のショボさで観光客も呆れて2度とこない、悪循環になっていることに全く気づいていない運営者。外に出て一流の企業のやっていることを学ぶ機会がないために呼び込み方、売り方が非常に下手でもったいない。	静岡市において、イベントを実施する際には様々な手法にて事前告知を積極的に行っていますが、いただいた意見を参考に運営時間や内容も含め来訪者が満足できるものとなるよう努めています。また、イベントの先進事例についても情報収集し、よりよい運営を目指していきます。
62	観光・交流	観光サービスについては、街並みの維持、アップデートとの兼ね合いが難しいと思います。安易な開発ではなく、文化的な価値や地域の特色を失わない形で検討しなければ市のらしさが失われ、首都圏との競合になれば負けてしまうと思います。	静岡市には、豊かな自然や、長い歴史の中で培われてきた独自の文化が残っています。いただいたご意見のように、静岡市の特色を失わない形で、観光地域としてのプランディング、観光誘客に取組んでいきます。
63	観光・交流	観光としては外国人向けに静岡市の施策が必要。長野県の小布施のような意識高い系の観光客が来なくなるような歴史、文化、グルメ、宿泊の融合が必要。そのためにも駿府城は再建すべき。例えば松本城や松江城は観光に非常に役立っていると思う。	静岡市では、駿府城跡天守台発掘調査で見つかった家康公が築いた貴重な石垣の保存・公開(野外展示)や、駿府城天守を高精細CGで再現してVRやARとして観光や学習に活用する取り組みを進めています。駿府城の再建については、天守等の正確な姿が不明であること、家康公が築いた唯一無二の文化財である石垣を壊さず再建する必要があること、など課題が存在しています。天守等に関する資料の情報収集や調査研究等を継続しながら、駿府城を効果的に観光に活用できるよう取り組んでいきます。
64	観光・交流	観光に伸びしろがあるのは同意。ただ、観光の柱となる存在がないのではないか。歴史背景とインバウンド需要を鑑みて、今こそ駿府城天守閣再建を目指すべきと考える。インバウンドの地方観光はこれから伸びるはずだ。その際、歴史背景の象徴として「お城」の存在は観光の柱となるだろう。お城は象徴としての存在だけでなく、木材をはじめとする地元資源の活用や宮大工の育成にもつながり、林業・伝統技術の振興と継承に資する。このとき、大切なのは天守閣再建プロジェクトを民間投資で賄うことだ。市は土地を貸し、民間が投資と融資などを集めて営利事業として運用しないと持続可能にはならない。また、内外問わず観光客数が増えれば宿が足りなくなるのは明白だが、静岡市内に民泊の数が少ないので現状の課題だ。民泊事業の推進は、空き家の利活用にもつながり、新規のビジネスチャンスを手にする市民も増えることにつながる。そのためには県条例である「学校等から100m以内の営業制限」は撤廃すべきだ。この条例があるせいで多くの物件が民泊事業の対象から外れてしまうことによくよく留意しないと何故民泊が増えないのかその理由を理解することはできない。	静岡市では、駿府城跡天守台発掘調査で見つかった家康公が築いた貴重な石垣の保存・公開(野外展示)や、駿府城天守を高精細CGで再現してVRやARとして観光や学習に活用する取り組みを進めています。駿府城の再建については、天守等の正確な姿が不明であること、家康公が築いた唯一無二の文化財である石垣を壊さず再建する必要があること、など課題が存在しています。天守等に関する資料の情報収集や調査研究等を継続しながら、駿府城を効果的に観光に活用できるよう取り組んでいきます。また、静岡市は観光宿泊客数の低さが課題であり、それを補う施策として、ご意見いただいたような民泊での受け入れ環境整備に取り組んでいます。民泊に関する条例は高まる宿泊ニーズに対応しつつ、無許可営業や周辺生活環境への悪影響防止し、民泊を安全かつ健全に普及させることを目的としており、多くの自治体で学校等から100m程度の区域内で民泊を制限しています。同条例が住環境の保全と宿泊客の増加につながるよりよい制度となるよう、いただいたご意見は条例を所管する静岡県担当課と共有させていただきます。
65	観光・交流	商業施設などで雇用を増やす事ももちろん若者の定住に繋がるとは思うが、まずそもそも静岡市で観光スポットを聞かれてもなかなか答えられる場所がないと言うのは、大学を選ぶ時の参考としても弱いのではないだろうか。	観光政策は、自らの地域を愛し、誇りを持った暮らしをすることが観光客の訪問適地として認識されることにつながると考えられます。また、その政策の実現は行政や観光事業者だけの取組みではなく、市民をはじめ市内外の組織や関係者の理解と支援や協力がなければ成し得ないものと認識しています。そのため、市民・団体・事業者が一体となってつながり、行動できる場「しづおか観光共創プラットフォーム」を7月に創設しました。今後はこのプラットフォームも活用しながら、「お茶のまち」、「ホビーのまち」など一部で取り組まれているものを含め、統一した観光地域ブランドの確立に向け、市民の皆様にも魅力的に感じていただけるような観光地づくりを進めています。
66	観光・交流	例えば朝ドラでは高知が数回メインになっています。でも静岡市が朝ドラのテーマになったことは一度も無いと思います。今は高知に行きたいです。人口減少は誰も分かっている日本の問題ですが、それを嘆いていてばかりでは前に進みません。ぜひ静岡で何かが火を吹いた！そういう行動を起こしてください。応援します。	静岡市では、市の様々な魅力を広く発信し、市内の経済活性化及び観光客誘致のため、静岡市を舞台としたドラマや映画等の撮影を支援する「フィルムコミッショング事業」を実施しています。引き続き、静岡市の都市認知度向上及び観光地として選ばれる都市となるための取組を推進していきます。
67	商工・物流	「静岡市の人口減少とその原因」の項目で企業用地の供給に行政がかかわってこなかったため産業の新陳代謝がすんでいないと記載があるが、まったくそのとおりだと思います。長泉町や吉田町が合併せずにいられるのも企業立地が多くあるからであり、静岡市内は土地がないわけではないのに、企業が少ないとずっと感じてきました。	静岡市では、5,000ha以上の未利用・低利用農地が存在しており、これらの土地を有効活用していくため、農地の集約化とこれに伴う企業用地の創出に取り組んでいます。現在、企業用地の提供に向けて、市内で開発可能性のある土地を選定し、地権者の土地利用意向の調査を実施しています。調査の結果、地権者から企業用地としての土地利用について賛同が得られた地域については、企業への情報提供を進めます。また、中長期的には工業団地整備などの大規模開発も必要であると考えておりますので、様々な手法による用地創出の取組を強化していきます。
68	商工・物流	「魅力ある仕事や雇用が市内に不足している」のが原因なのか「あるけれども知名度がない」のかの分析は行ったほうが良いと思います。	静岡市が高校生に行ったアンケート調査では、5割以上が「知っている市内本社企業数」を0または1と答えており、市内企業の認知度の低さが市内で就職しない原因の一つと考えています。そのため、就職支援情報誌「静岡で働く。」などにより市内企業の情報を発信するほか、高校生や大学生と企業との交流機会を設け、市内企業の認知度向上や理解促進に取り組んでいます。また、若者の意識調査で「志望する企業や職種が市内にない」という回答が上位だったことから、若者の就職意欲が高いデジタル関連企業等の誘致にも取り組んでいます。いただいたご意見を踏まえ、引き続き分析を行いながら、効果的な施策に取り組んでいきます。

No.	分類 (現行4次総)	資料に対するご意見	ご意見に対する静岡市の考え方
69	商工・物流	企業誘致について食品、観光の企業は首都圏にも負けない環境、リソースがあると思います。またIT関連も人気の職業であり、企業へのメリットを打ち出して誘致していただきたいです。	静岡市では、地域未来投資促進法に基づく「静岡市地域基本計画」において、地域の特性を生かし地域経済をけん引する成長分野に「食品・ヘルスケア」、「観光ブランド」産業を位置付けています。 こうした成長分野の企業に対しては、企業立地促進助成制度における補助率の上乗せや、設備投資の減税措置などのメリットを打ち出し、誘致に取り組んでいます。 また、IT関連企業については、2024年度から主にアニメ・ゲーム・3DCGなどのデジタル関連企業を対象として、新たな助成制度の創設や人材の育成や確保に関する支援策を打ち出し、誘致に取り組んでいます。 いただいたご意見を踏まえ、食品・観光・IT関連企業など地域の強みとなる産業への支援を強化していきます。
70	商工・物流	トヨタのような製造業の工場誘致、非製造業は本社機能の誘致が必要。シリコンバレーのようなIT系企業の集まる仕組みが欲しい。そのためには、大胆な減税策が必要。若者の雇用に対する助成もあると良い。 本社機能の移転としては東京圏に近い三島、名古屋圏に近い浜松地域の施策が良い。ベンチャーの育成も大切であり、これは商業都市である静岡市地域の施策が望ましい。	静岡市では、中心市街地へのデジタル関連企業の誘致と、市街化調整区域を含む郊外における製造業・物流業等の企業立地の促進に取り組んでおり、企業が静岡市への進出にあたっての助成などを行っています。 また、市と企業が連携し従業員の奨学金返還を支援する制度の創設に取り組んでいるほか、市内で働くために市外から移住してきた方に対する移住補助や家賃補助などにも取り組んでいます。 いただいたご意見を踏まえ、工場・本社機能・IT関連企業の誘致、ベンチャー企業を含むスタートアップの育成や誘致に取り組んでいきます。
71	商工・物流	実際に首都圏に就職した大学生、静岡市(静岡県)に就職した大学生へのアンケート結果を見て、静岡市に果たして工場が必要なのか、専門的な知的労働の企業を作るのが効果的なのか?考える必要がありそうです。 うちの子ども、上の二人は地方大学に行って静岡に帰って来ましたが、行きたい会社がないよりも、東京は人が多すぎるので住みたくないって方が選択肢だったようですので、仕事先だけが選択肢ではないかなあと思います。	静岡市では、魅力ある仕事や雇用の創出に向け、製造業をはじめとする工場等の誘致・留置だけでなく、若者を含む幅広い世代が働く場を生み出すため、デジタル関連企業の誘致にも取り組んでいます。 ご意見にある「仕事だけが選択肢ではない」ということも重要な視点であり、中心市街地など拠点となるエリアについて、職・住・商・学・遊といった多様な機能が近接するなど、若者に魅力のあるまちづくりが必要だと考えています。 いただいたご意見を踏まえ、企業誘致の取組と併せ、静岡市で生活していくにあたってのメリットなどの情報発信の取組を強化していきます。
72	商工・物流	既存企業を蔑ろにしながら新しい用地を創出したのでは遅きに失する。まず静岡の基幹産業はなにか。サービス業では塾産業が意外と威勢がいい。私も小さな塾を経営しているが塾生の中に毎年1、2人と塾の先生になりたいという生徒が存在する。ところが零細にとって雇用となると敷居が高いので人員が欲しいのに雇えない。若者を引き止めたいならそういう既存の、基幹産業になりうる分野に税制優遇や補助金をつけていくべきではないだろうか。現状、県内大手ですら人員が削減され、AIなどの進歩で人を雇わないジャンルになりつつある分野に、静岡県が「血の通った教育」を掲げ全国に先駆けて一石を投ずることにも大きな意義があるはずだ。	静岡市には、大規模工場及びそれを支える地域企業が強固なサプライチェーンを構築している製造業や、交通の要衝であることを活かした物流関連産業等、多様で幅広い産業が集積しています。静岡市産業の「稼ぐ力」を強化し、魅力ある雇用と所得を増やしていくためには、企業の新規立地や既存工場の刷新・拡張、スタートアップの起業・集積を進めるとともに、市内に集積する地域の強みを活かした産業が、市内の産業を巻き込み地域経済をけん引していくよう戦略的に振興していく必要があると考えています。 令和7年度から、産業の客観的な強みを明らかにするための研究を有識者とともに実行しています。この中で多様な観点から分析を行い、静岡市産業について施策を検討していきます。
73	商工・物流	スタートアップとかもう遅すぎて古すぎます。今からそんなことして何になるんですか?都会の優秀な人はスタートアップのうまみがなくなってきたことわかっていますから次のフェーズに行ってます。もう少しリサーチしてください。	革新的な技術やビジネスモデルを有するスタートアップは、多様化・複雑化する社会課題の解決や経済成長をけん引する新しい担い手として期待が高まっており、国は「スタートアップ育成5か年計画」を2022年に策定し、スタートアップの創出やスタートアップへの投資額の拡大に取り組んでいます。 また、静岡市経済においては、産業の新陳代謝が十分に進んでおらず、新しいチャレンジが生まれにくくなっているという課題があります。こういった課題に対しても、新たな価値や競争力を創出するスタートアップとの共働による取組は効果的であると考えており、こうした取組を促進する仕組みづくりを進めています。
74	商工・物流	清水港に「小型水族館や海辺のラボ」を整備し、観光と教育の両立を図ることを提案します。米国のボルチモア国立水族館やモントレー湾水族館は、地域経済のセンター施設であると同時に、子どもの海洋教育や環境意識向上に貢献しています。清水港でも家族連れが訪れる学び拠点を設ければ、観光客の再訪を促し、地元の子どもたちにも海とのつながりを感じてもらえるでしょう。	静岡市では、清水港周辺エリア周辺の活性化に寄与し、海洋保全意識の醸成による人材育成を目的とした、(仮称)静岡市海洋・地球総合ミュージアム整備運営事業を進めています。 ご意見にある「子どもの海洋教育や環境意識向上」といった学び場の拠点づくりは、今後の静岡市の持続的な発展にとって重要な役割であると認識しています。 いただいたご意見を踏まえ、地元の子どもたちにも海とのつながりを感じてもらうとともに、観光や地域の振興につながるような施設整備及び運営計画を今後も検討していきます。
75	商工・物流	「商工会の意見が強く、規制が厳しい」という声を耳にすることがあります。確かに、地域の商業活動を守るための仕組みは大切ですが、過度な規制は新しい挑戦や事業展開の妨げとなる可能性があります。 昔ながらの商店や街並みを守ることは重要だとは思いますが、時代の変化に応じた新しいビジネスや文化を受け入れ、育てていくことも欠かせません。 規制の見直しや柔軟な運用を検討していただきたいです。	静岡市では、まちづくりの方針との整合が取れた望ましい商業環境を形成するため、「静岡市良好な商業環境の形成に関する条例」を運用し、市内における商業集積の方向性や売り場面積の上限などを定めています。内容については、市民の皆さんや事業者の声などを踏まえながら、時代の変化に対応し、良好な買い物環境について課題等を整理した上で、必要な見直しについて検討していきます。
76	都市・交通	今更コストコ誘致はどうするんでしょう。静岡は個性的なスーパーも多いのに。コストコの時給が高いのでそちらにパートタイマーが流れたら、地元密着スーパー潰れますよ。	東名高速道路 日本平久能山スマートIC南側の宮川・水上地区では、広域から多くの来訪者を呼び込むことのできる「交流拠点」の形成を目指し、土地区画整理組合(地権者の集合組織)による土地区画整理事業が行われています。 事業用地の売却先や進出企業についても、施行者である組合が企業等との折衝を行うことにより決定されます。 静岡市としては、組合をバックアップしながら、魅力的な「交流拠点」の形成に取り組んでいきます。 いただいたご意見は、組合と共有し今後の取組の参考とさせていただきます。

No.	分類 (現行4次総)	資料に対するご意見	ご意見に対する静岡市の考え方
77	都市・交通	グラフで比較されている、福岡市、岡山市、熊本市、新潟市、浜松市について全て訪問したことがあります、町の活気が静岡市と比べ物にならないくらいあります。交通インフラに関しても整っていて、どの都市も表玄関である主要駅や観光地は、静岡市と比べ物にならないくらい美しいです。	静岡市は、政令市の中で最も厳しい人口減少率となっており、何も対策をしなければまちの活力がさらに低下することが懸念されます。こうした中、静岡駅を含む中心市街地では、南口駅前広場やしづチカ、青葉シンボルロードの再整備等を予定しています。商都として栄えてきた歴史を活かしながら、歩いて楽しめる、新しい時代の「職・住・福・商・学・遊が近接したまちづくり」を行い、その効果を市域全体へと波及させることで、まちの活力を高めていきます。また、豊かな自然・食・歴史・文化など、静岡市が誇る潜在的な魅力を磨き上げ、持続可能な観光地域づくりを進めることで、静岡市ならではの感動体験を提供し、観光消費額の最大化を進めていきます。
78	都市・交通	私が住む草薙は自然が多く、坂は多いですが運動にもなるとてもいい場所なので多くの人に住んでいただければと思っています。(最近、空き家が増えたため)学校も多く地域の活性化も商店街でもがんばっておりますが、ますます活性化できるよう市のご協力をいただければと思っています。	草薙駅周辺では、南口メインストリートの整備や新幹線高架下の利活用などを進めており、地域住民や学生などが居心地が良く滞在し、歩きたくなる(歩いて過ごせる)空間づくりを推進するとともに、公民共創によって地域の特色を活かしたまちづくりを進め、地域全体の魅力向上を図っています。草薙地区は商店街や地域住民自らが主体的にまちづくりに参画し、市と連携して様々な取組を実施することで、確実にまちの魅力が高まっていると認識しています。今後は、これまでの草薙駅周辺の活動を自然豊かな丘陵地を持つ有度地区全体へと範囲を広げ、引き続き公民共創のまちづくりに取り組んでいきます。
79	都市・交通	静岡市の中心部の再開発なども念頭にあるのかと思いますが、若者や子育て世代にとっての家賃を考えると、そのエリアで完結できる暮らしは理想ではあるけど実現には遠いような印象も受けます。JRや静岡鉄道に垂直方向の交通の便の改善や、清水区での暮らしやすさも念頭に居住するのに経済的な観点で値ごろなエリアを提示することも必要ではないでしょうか。	静岡市は、政令市の中で最も厳しい人口減少率となっており、何も対策をしなければまちの活力がさらに低下することが懸念されます。こうした中、中心市街地において、人と投資を呼び込むまちづくりを進めるとともに、郊外や中山間地では、多様な暮らし方を実現できるまちづくりを進めることで、市域全体でまちの活力や魅力を高めていきます。このような考え方のもと、郊外や中山間地の居住エリアでは、自然の豊かさを活かした住環境の提供や、JR・静岡鉄道等の既存公共交通と連携したきめ細かい地域主体の交通サービスの提供等により、暮らしやすいまちづくりを進めていきます。
80	都市・交通	気になるのは静岡駅南側の再計画です。60の定年まで働き、両親の介護を請け負う中で駅外にトイレがないことが不満です。バス通学の支援学校の生徒が駅中のトイレまで行けず(それだけの見守りの先生はいませんよね)植え込みで用を足しているのを見ました。私は今44都道府県を訪ねた経験がありますが、観光客が必ず行くところはトイレです。高野山では駅周辺に複数の清潔なトイレがありました。用宗駅も外にトイレがありますね。ぜひ南口には現状を鑑み、誰もが行きやすいトイレを中心に計画を考えてほしいと思います。誰もが静岡を自慢に思えることを増やすことが人口増加にもつながると思います。	静岡市では、交通結節点としてのアクセス機能や広場機能の向上に向けて、静岡駅南口駅前広場整備の検討を進めています。今年3月に「静岡駅南口駅前広場再整備基本計画」を策定・公表しました。ご指摘のとおり、現状広場内にトイレがなく、ASTY内のトイレ等を利用していただかなければならないことから、今後、駅前広場の設計を進めて行く際に、利用者の皆さんに使いやすいトイレを検討していきます。
81	都市・交通	現在静岡市内に目立つ花畠や準ずる公園がなく、市外へ出かける必要がある。昔は向日葵やコスモスなど地域で育ていた所もあるようだが、コロナ禍を機にやめてしまった所が多い。せっかく広い土地や豊かな自然があるとするなら、浜松のフラワーパークやガーデンパークのように、季節の花を愛でられるような公園や施設があつても良いのではないだろうか。周りの子育て世帯も花と子供の写真を撮るために一緒に市外へ出たりするが、やはり子連れで長距離の移動はなかなかハードルが高く、気軽にに行く事が出来ない。	地域の花壇の緑化推進や花や緑の魅力を提供する園芸市を開催するなど、市民の皆さんに花や緑に親しんでいただくことを目的とした取組を実施していますが、ご意見のとおり、市内に大規模な植物園やフラワーパークはありません。今後、公園の再整備や谷津山等の身近な自然の保全・活用を推進していくなかで、木々や草花を楽しむことができる環境づくりに取組んでいきたいと考えています。
82	都市・交通	久能・大谷地区の開発状況が気になっています。コストコを誘致しているとも聞きますが、できれば、近隣にない施設で静岡の風土にあったものを希望します。静岡は食の魅力もあるので、新しい観点で農と食を提案するなどを期待しています。総合計画については、今後の具体的な見直し案を楽しみにしています。	大谷・小鹿地区のうち、東名南側の宮川・水上地区では、土地区画整理組合(地権者の集合組織)による土地区画整理事業が行われています。静岡市としても、当地区における大規模開発を大きなチャンスと捉え、土地区画整理組合と連携し、商業、食と農、スポーツ、エンターテインメント等の静岡らしい施設の集積により、広域から多くの来訪者を呼び込む新たな「交流拠点」の形成を目指していきます。いただいたご意見は、組合と共有し今後の取組の参考とさせていただきます。
83	社会基盤	資料によりますと、魅力ある仕事や雇用が不足していることが一因とありますが、それが人口減少の大きな一因であるとするならば、人口減少を解決するためにも、新規の企業誘致や既存企業の雇用の拡大は欠かせないと感じます。その点に於きまして、これまで通り各企業等に対する支援策(補助金制度やコンサルティング等)も有効であると感じますが、その様なソフト的な支援に加えて、企業が立地、事業を行うための外的環境(都市環境や道路環境等)の改善が必然であると感じます。具体的には、当市は東西のインフラ(各国道やJR線、静岡鉄道等)は豊富ですが、南北のインフラが少なく、それが市内の人流、物流の停滞や鈍化に繋がっていると感じます。各企業もサービス等を提供するにあたり、スムーズな人物流の往来は魅力となりますので、その点が(他市と比較して)企業にとって魅力的となれば、新規や既存企業の誘致や拡大に寄与するだろうと感じます。上記の側面から、例えば大谷地区の再開発によって南北の人流物流の活性化や分散化を図ることはとても魅力的であり、今後も積極的に東西インフラの整備を行い、人物流の活性化、改善に繋がることを期待します。	いただいたご意見の南北インフラの整備について、静岡市では、都市計画マスターplanで示している集約連携型都市構造の推進のために、重要だと認識しています。『誰もが安心して暮らし、幸せを実感し、住み続けたいと感じられるまち』の実現に向け、南北インフラの整備を含め、必要な社会インフラの整備を進めていきます。

No.	分類 (現行4次総)	資料に対するご意見	ご意見に対する静岡市の考え方
84	その他	人口減少が進む中、自治会レベルで学習交流館を新築するのは何ためなのか、このようなことも市として見直すべきと思います。	静岡市の生涯学習交流館は、生涯学習活動の場としての機能に加え、地域活動の場や防災拠点としての役割も担っていることから、施設の耐震状況や老朽化の状況に応じて、建替えや長寿命化対策を計画的に進めています。 しかし今後は、人口減少に伴い公共施設に対する需要の減少が見込まれることから、ご意見をいただいた「自治会レベルでの生涯学習交流館の新築」については、2024年7月に改定された「静岡市社会共有資産利活用基本方針」に基づき、地域や利用者の意見を伺いながら、民間資産や他の公共施設の利活用、公共施設の供給量の適正化などを踏まえて検討していきます。 また、施設で提供しているサービスについても、設置当初と比べて人口構成や市民ニーズ、民間事業者によるサービスの提供など、取り巻く環境が大きく変化しているため、利用機会の公平性を考慮し、誰もが利用しやすい「生涯学習・健康増進サービスの持続的な提供」を目指して内容を見直していきます。
85	その他	静岡市は、資料記載のとおり温暖な気候や多様な産業に恵まれています。しかし、現在人口は減少傾向にあり、(外国人移住者や労働者に関する是非は別として)今後外国人移住者や労働者との共生がより必要となる可能性もあります。仮に、一つの人口減少対策として外国人との共生や労働力への期待をする場合には、市内各所に於ける英語(それ以外の言語)表記の充実や、ユニバーサルデザインの増加等により、既出の気候や産業に加え「(日本国内において)静岡市は外語表記やユニバーサルデザインに恵まれ、外国人の生活にとって魅力的である。」と言ったブランド付け等も、一つの有効手段であると考えます。	多言語による標記や情報提供については、静岡市多文化共生のまち推進条例に「多様な文化又は生活習慣を持つ人々が安心して生活できる環境の整備」を位置付け、計画的に取り組んでいます。いただいたご意見を参考にしながら、多言語による標記や情報発信とともに、分かりやすいやさしい日本語の活用や普及を今後も引き続き取組み、誰にとっても住みやすい多文化共生のまちの実現を目指していきます。
86	その他	保守的すぎる静岡が嫌いで、一度は地元を離れました。でも、その保守的な価値観と折り合いをつけることさえできれば、とても住みやすく好きな街です。市の価値観が保守的であることは否定しません。ですが、そこに合わなかった人の逃げ場になるようなコミュニティがこれからもあってくれたら、静岡市はより住みやすい街になると思いました	これから社会において、多様な考え方、価値観が集まった様々なコミュニティの存在が重要であり、それらが共鳴し、重なり合うことで「社会の大きな力」となり、新たな価値の創造に繋がるものと考えています。 「地域をよくしたい」と考える市民の皆さん、「思い」や「行動」によって形成される、コミュニティのつながりを下支えし、伴走していくことが静岡市の役割であると認識し、市民の皆さん方が様々な形で地域や社会に関わることができるよう取組を進めています。
87	その他	・私は離婚し、子どもも欲しくないため、静岡市の人口減少に拍車をかけると罪悪感をもっています。子どもを欲しくない理由の一つは、性暴力に遭いそうになつたためです。なので、性的同意など性教育を徹底してほしい。 あと、全国的な少子化の原因の一つでは?と思うのが、いまだに、子育てが母親に偏っている印象です。ジェンダー平等も繰り返し伝えていってほしい。	静岡市では、第4次静岡市男女共同参画行動計画において、「ジェンダー平等に基づき、すべての市民が安心して自分らしく暮らせる静岡(まち)」を目指す姿として様々な取組を進めています。 思春期における性と生について理解を促進して、デートDVを予防し、豊かな人間関係を築いていくため、中学生向け学校出前講座を実施しています。また、女性に偏りがちな家事・子育てについて男性の参画を促進するため、家事シェアノートの作成、配布やワークショップのほか、企業・団体を対象とした出前講座も実施しています。 いただいたご意見を踏まえ、今後ともジェンダー平等の実現のため取組を進めています。
88	その他	今回の「見直しの考え方」を取りまとめた目的や想いがメッセージとして非常に明確に伝わっている点がとても好印象でした。頑張って読んで意見を出そう!という気持ちになりました	静岡市では、人口減少や地域課題の複雑化に対応するため、市民の皆さんとともに未来を描く「共創」の姿勢を大切にしています。 また、「共創」を目指す中で、皆さんから率直なご意見をいただけることは大変ありがたく、今後も皆さんと共に、より良い未来の実現を目指していきます。
89	その他	4次総の主な問題全般について、批判する内容が見受けられますが、その場合市民としてはなぜそんな計画を作ってしまったのかという疑問が当然にして湧くと思います。そのところの説明がないまま見直すといわれても同じようなものができるのではないかという不安が生じます。	これまでの総合計画は「行政が何をやるか」という視点(アウトプット重視)で策定されてきましたが、今回の見直しでは「市民にとってどんな成果や利便がもたらされるか」という視点(アウトカム重視)への転換を図ります。 やること自体を大きく変えるのではなく、行政が「何をやるか」という視点から、「市民にとってどんな良いことが実現できるのか」という視点に重点を置くことにより、市民目線での計画づくりへと転換していきます。
90	その他	「住み続けたいと感じられるまちになるのかを真剣に考え」の部分ですが、今までも真剣には考えていたが課題とのミスマッチがあったのではないかでしょうか。「今まで真剣ではなかった」という趣旨を強調したい場合以外は表現を変えた方が良いかと思います。	現行の第4次総合計画では、人口減少を課題と認識しつつも、定住人口の減少について、詳細な分析や対策を示すことなく、交流人口や関係人口に重点を置いてきました。これまでも真剣に検討してきましたが、ご指摘のとおり、課題とのミスマッチが生じていた面があったと受け止めています。定住人口の減少による生活への影響を正面から受け止め、原因分析を行い、魅力ある仕事や雇用の創出など人口減少を緩やかにする施策を進めています。
91	その他	方向性がざっくりとしているため、この資料を読んで何か意見を求めるることは難しいのではないかと思います。 また、何について意見を求められているのかもわかりにくいです。	ご意見のとおり、今回の資料では第4次静岡市総合計画の見直しの基本的な考え方や課題認識を中心に示しています。皆さまのご意見を踏まえ、具体的な見直し内容を作成したうえで、改めて市民の皆さんにご意見を伺っていきます。
92	その他	P7ラストのイラスト部分 見直し方針の最後に入っているイラスト「人口活力の向上」については、四次総からの抜粋と書かれているのですが、この部分を抜粋した意図が分かりづらく感じます。「人口活力の向上」というメッセージは見直し方針でも共通して大事にしたいメッセージということでしょうか?それとも、この抜粋範囲を見直していくことでしょうか?...? どこからどこまでが抜粋した範囲なのかもわかりづらいので、抜粋範囲は地の文章と分けられるように囲うなどしていただけると分かりやすく感じます。	ご指摘いただいた「人口活力の向上」のイラストは、現行の第4次総合計画における人口減少対策の考え方を示す部分として抜粋したものです。 今後は、資料の意図がしっかりと伝わるよう、資料の構成や内容を工夫します。
93	その他	p7~8にかけて、従来の4次総の「良くない点」が図や抜粋が大きく抜粋されており、もったいないように感じました。イメージだけでも良いので、従来の4次総ではこうだったのを見直し後はこんなふうにします、のbefore→afterで見せていただけるとワクワクします。	ご意見のとおり、今回の資料では第4次静岡市総合計画の見直しの基本的な考え方や課題認識を中心に示しています。皆さまのご意見を踏まえ、具体的な見直し内容を作成したうえで、改めて市民の皆さんにご意見を伺っていきます。
94	その他	「※4次総冊子から抜粋」の記載が2カ所ありますが、抜粋した範囲が分かりづらいです。特にp8の定住人口・交流人口・関係人口などの図は、大きく最後に掲載されているため、「見直しで描くビジョン」のように見え、(2)(3)記載の点と齟齬があり混乱しました。	ご指摘のとおり、「※4次総冊子から抜粋」の範囲や図の位置づけについては、より明確に伝わる工夫が必要だったと認識しています。 今後は、資料の意図がしっかりと伝わるよう、資料の構成や内容を工夫します。
95	その他	高学歴の公務員が作成した落ち度のない答案という感じでこんなことはずっと前からわかっていたはずだ。なのに何の手も打たず今ごろこれが問題だなどと言不出すこと自体が時代遅れだ。	ご指摘のとおり、静岡市の人口減少については以前から認識されていましたが、若者流出の実態やその要因については十分な認識や分析ができていなかったと考えています。これ以上手遅れにならないよう、今後は、若者流出の現状や背景をしっかりと把握・分析し、若い世代が魅力を感じて住み続けたいと思えるまちづくりを目指し、第4次静岡市総合計画を見直したうえで、具体的な取組を推進していきます。